

4. 投資・財政計画（収支計画）

4. 1 投資・財政計画（収支計画）

1) 財政シミュレーションのケース

財政収支計画は、公共下水道及び特環下水道の2つの事業を合算して、下記のケースについてシミュレーションを実施した。

	料金水準	他会計補助金（出資金）
ケース1	: 現行料金	現行程度繰入れ
ケース2	: 平成34年度より料金改定(110%)	↑
ケース3	: 平成34年度より料金改定(130%)	↑

2) 財政シミュレーションの結果

(1) 使用料収入

近年の料金収入は15億円程度であり、水洗化人口の減少により減少傾向にある。

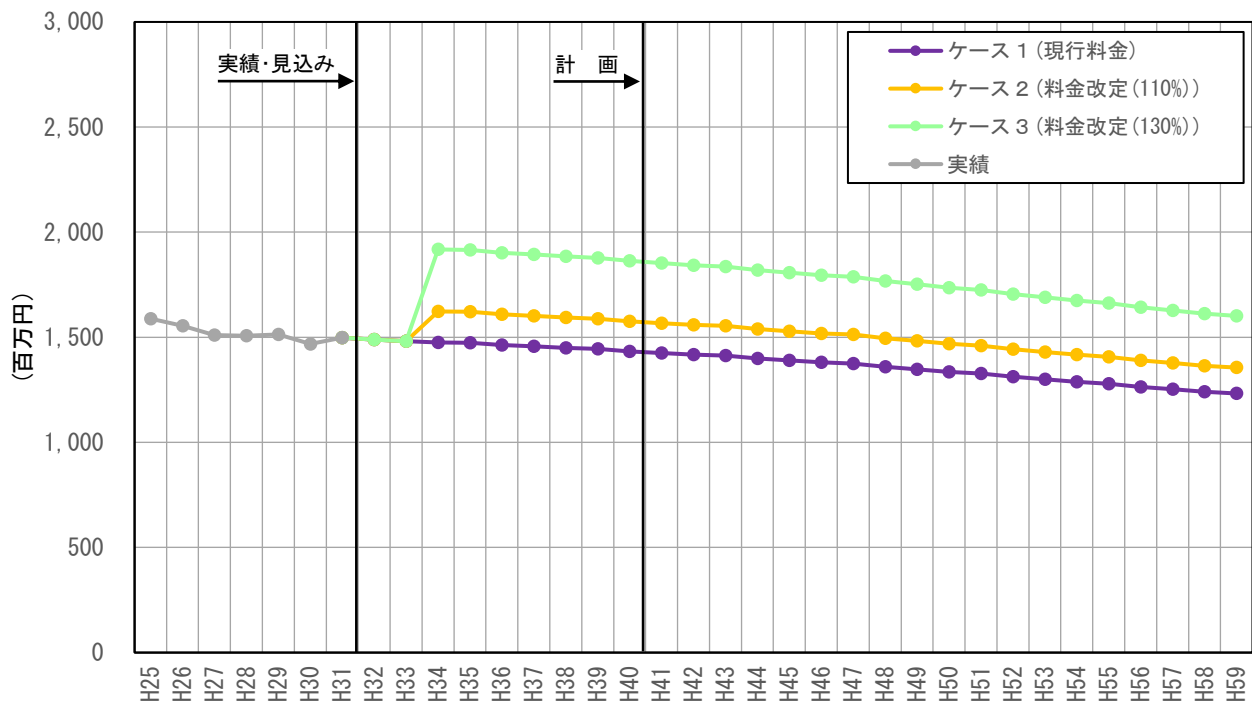


図4.1 使用料収入の比較 (百万円)

(2) 繰入金 (他会計補助金、他会計出資金)

料金収入だけでは経費や元利償還費用を賄えず、また雨水処理費等の受益者負担にそぐわない経費もあることから一般会計からの繰入を行っている。拡張事業が継続する平成47年度までは現行実績程度の繰入が今後も継続するとしている。

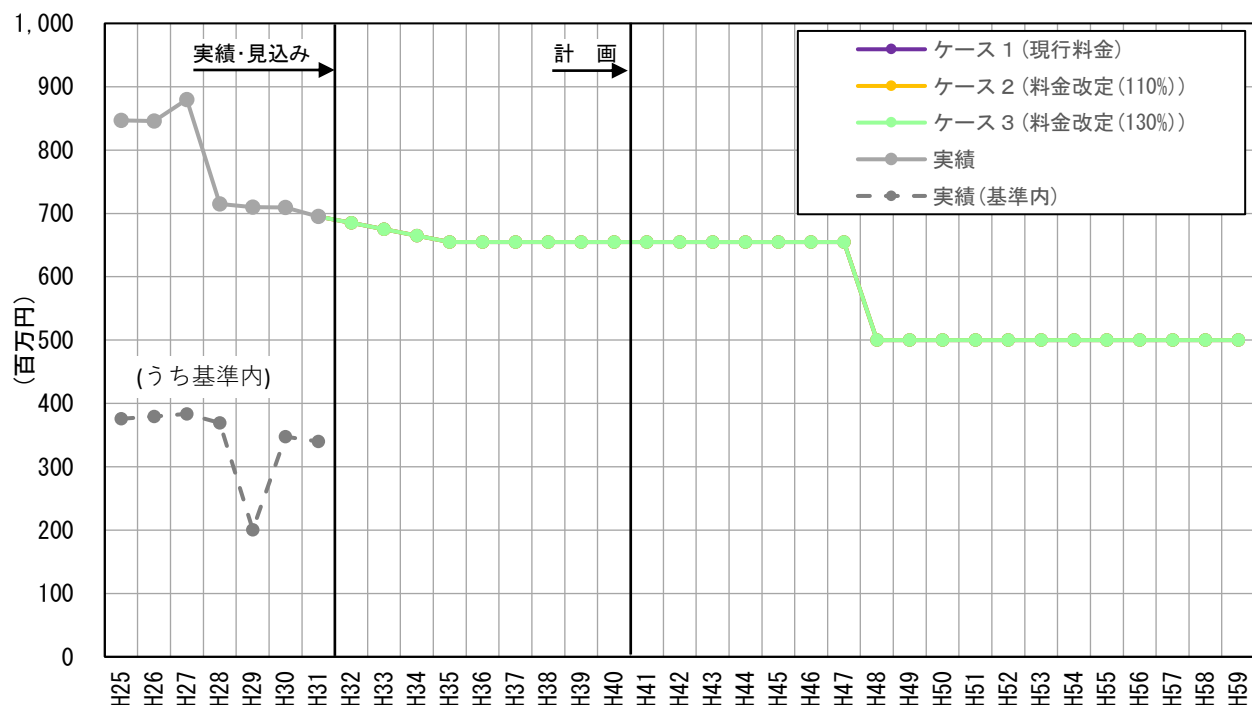


図4.2 繰入金(他会計補助金・他会計出資金)の比較 (百万円)

(3) 経常損益

平成48年度に拡張事業の終了による繰入金減少のため経常損益が悪化している。この他は主に支払利息の減少によって経常損益は徐々に改善する傾向にある。

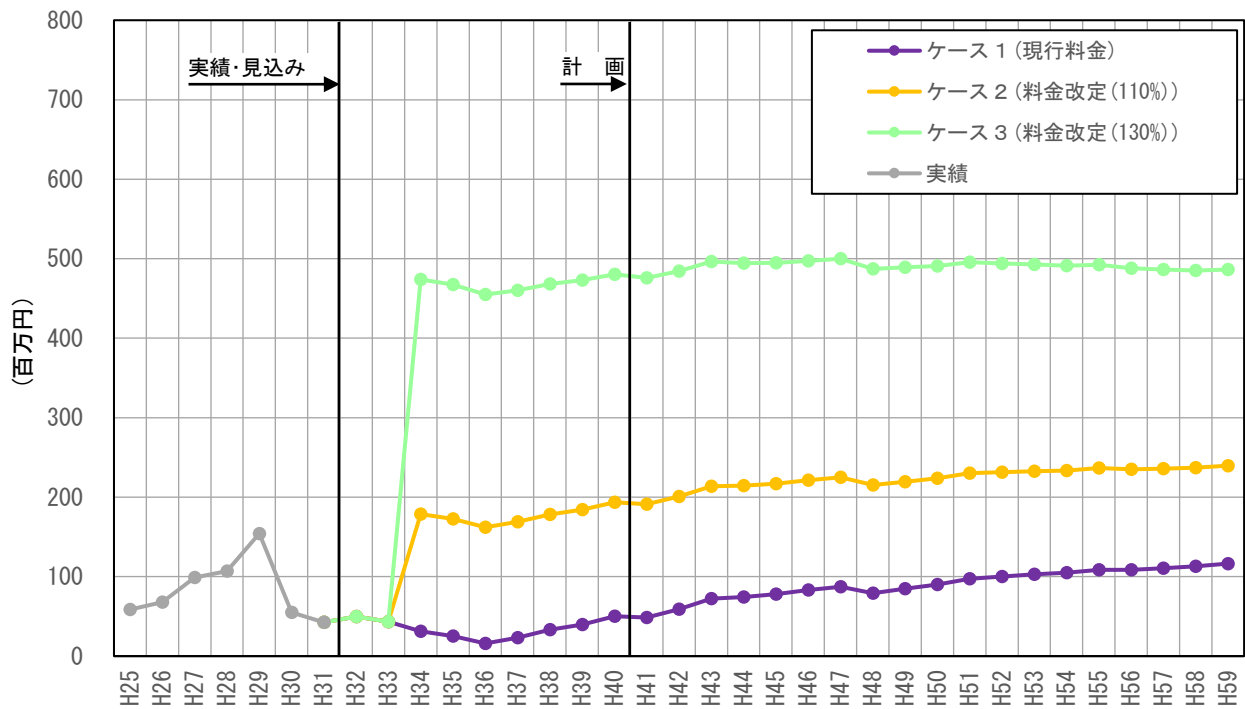


図4.3 経常損益の比較 (百万円)

(4) 資本的収支(差引)

建設改良費および企業債償還金による支出が企業債や国(県)補助金等の収入を上回り収支はマイナスとなるが、企業債償還金の減少により平成40年度以降にはマイナス幅は減少傾向となる。

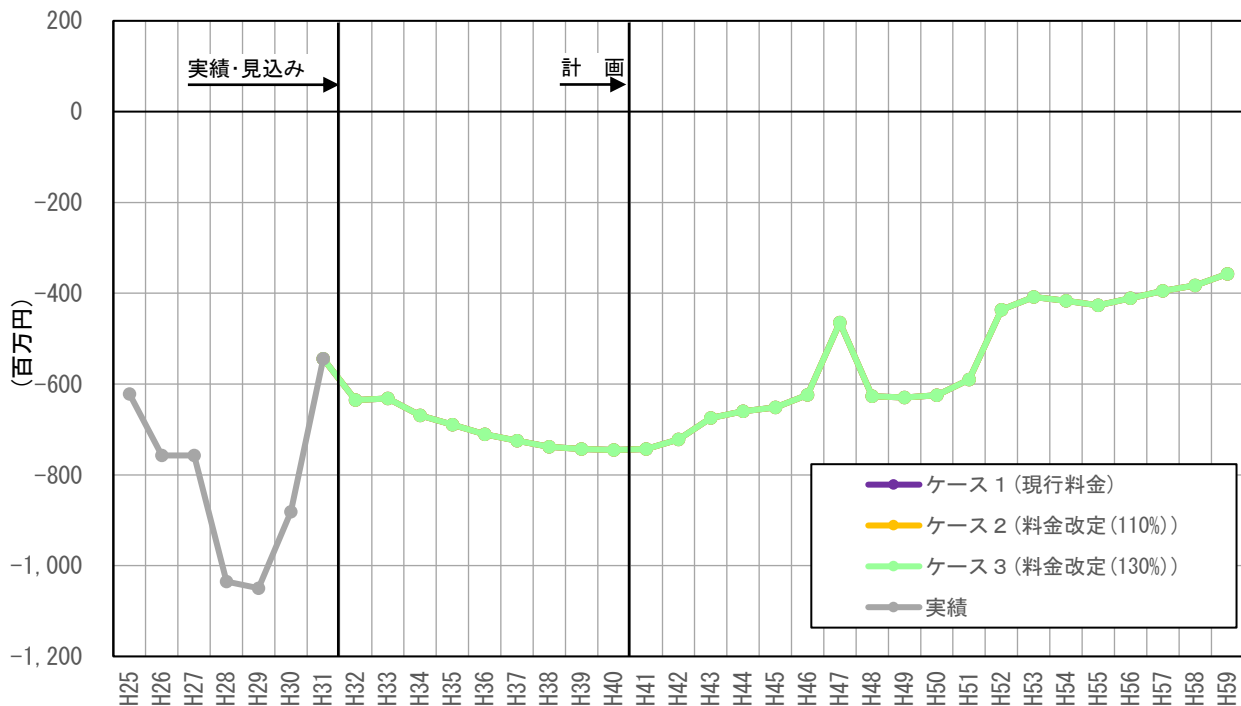


図4.4 資本的収支(差引)の比較 (百万円)

(5) 収支再差引

経常損益と資本的収支(差引)を合わせた収支再差引はマイナスとなる。拡張事業終了の平成48年度は繰入金減少により一時的にマイナス幅が拡大しているが、その他は主に企業債償還金の減少により平成40年度以降はマイナス幅は減少傾向にある。

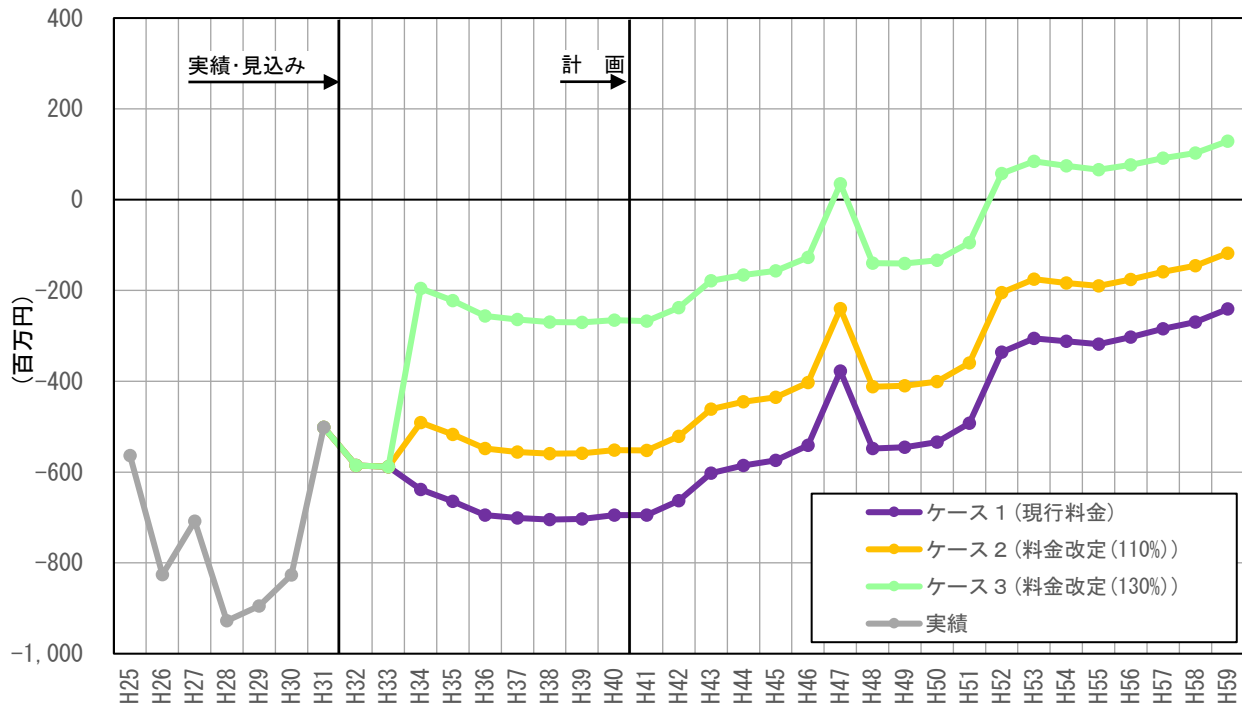


図4.5 収支再差引の比較(百万円)

(6) 4条(資本的収支)補填財源余剰/不足額

損益勘定留保資金によって資本勘定の不足額を補っている。拡張事業終了の平成48年度は繰入金減少により一時的に減少しているが、元利償還金の減少により補填財源は増加傾向にある。

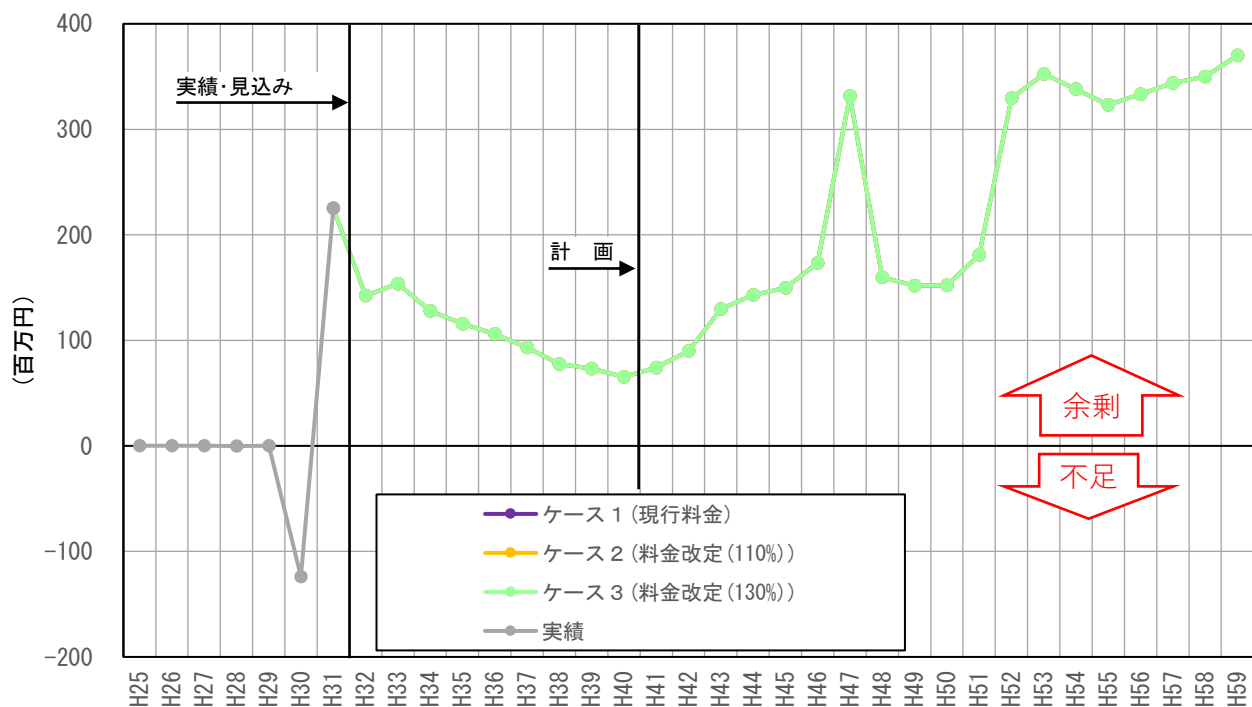


図4.6 4条(資本的収支)補填財源余剰/不足額の比較(百万円)

(7) 毎年の起債償還額

既存債の償還が進む一方で当面の新規起債発行額が少ないことから、毎年の起債償還額は減少する。平成27年度実績が大きいのは繰上償還によるものである。

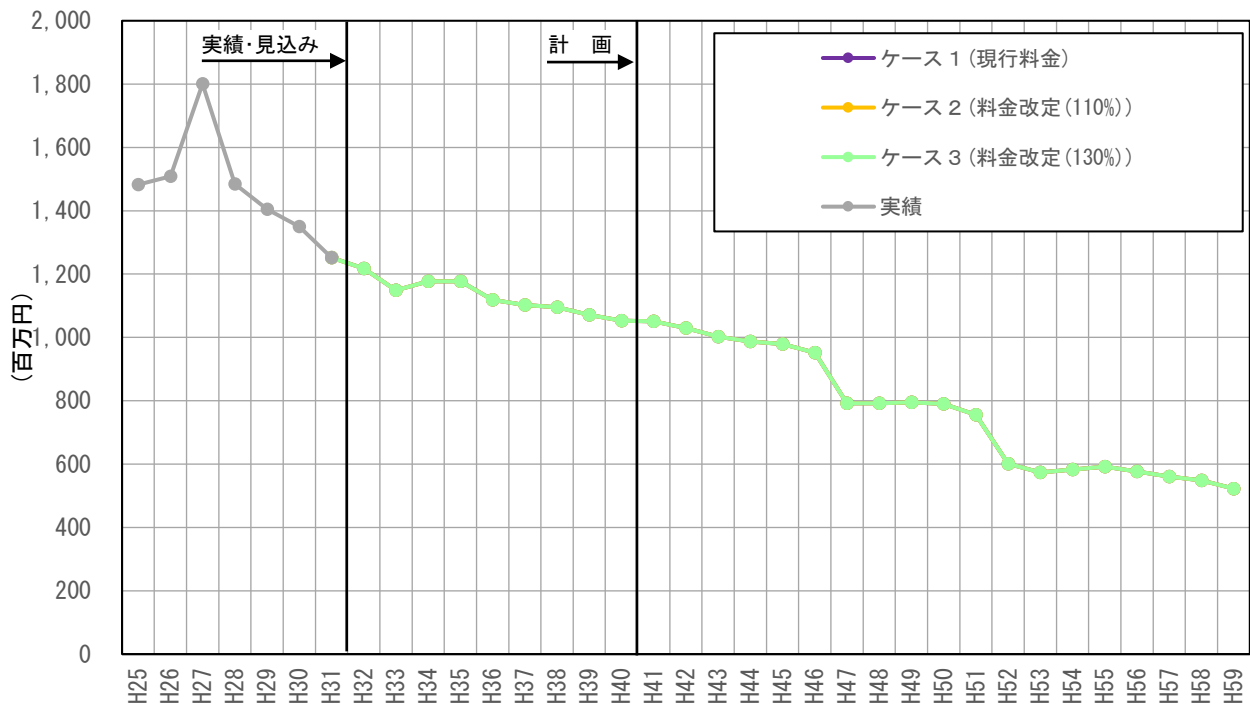


図4.7 毎年の起債償還額の比較 (百万円)

(8) 企業債務残高

既存債の償還が進む一方で当面の新規起債発行額が少ないことから、企業債務残高は減少する。

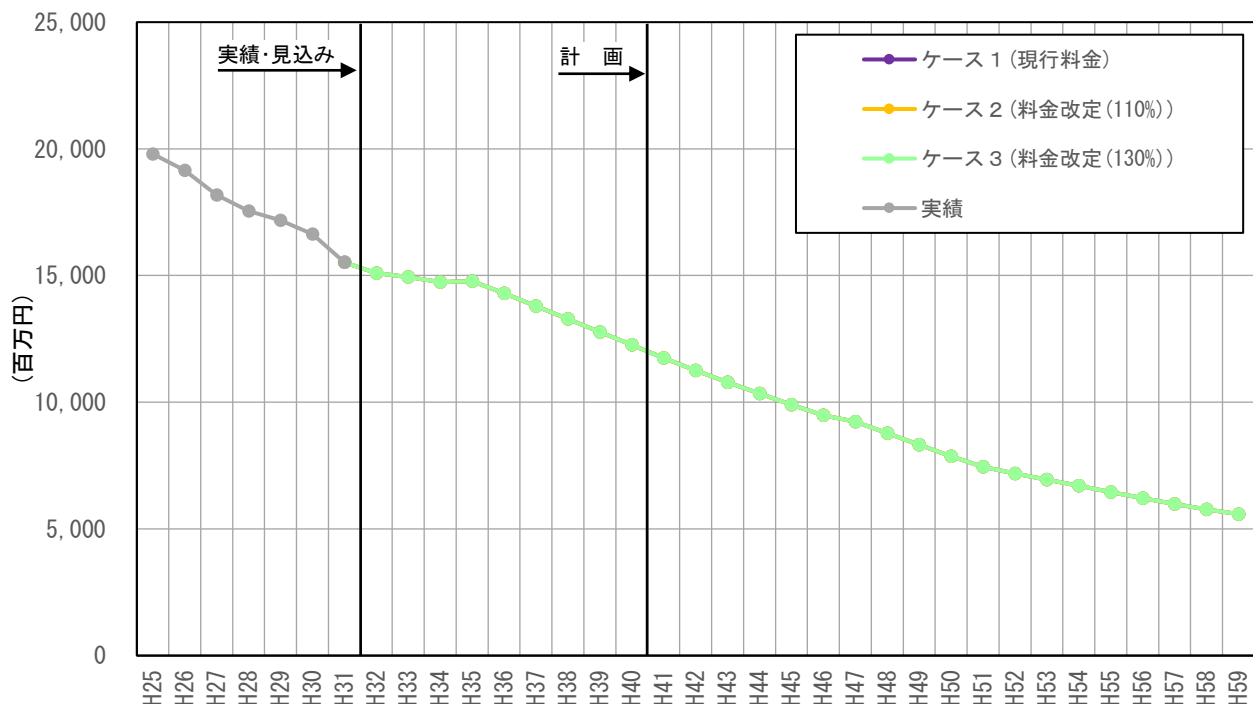


図4.8 企業債務残高の比較 (百万円)

(9) キャッシュフロー見込み

純利益および損益勘定留保資金の確保と、建設改良費の実績からの相対的な減少によってキャッシュフローはプラスを維持する。

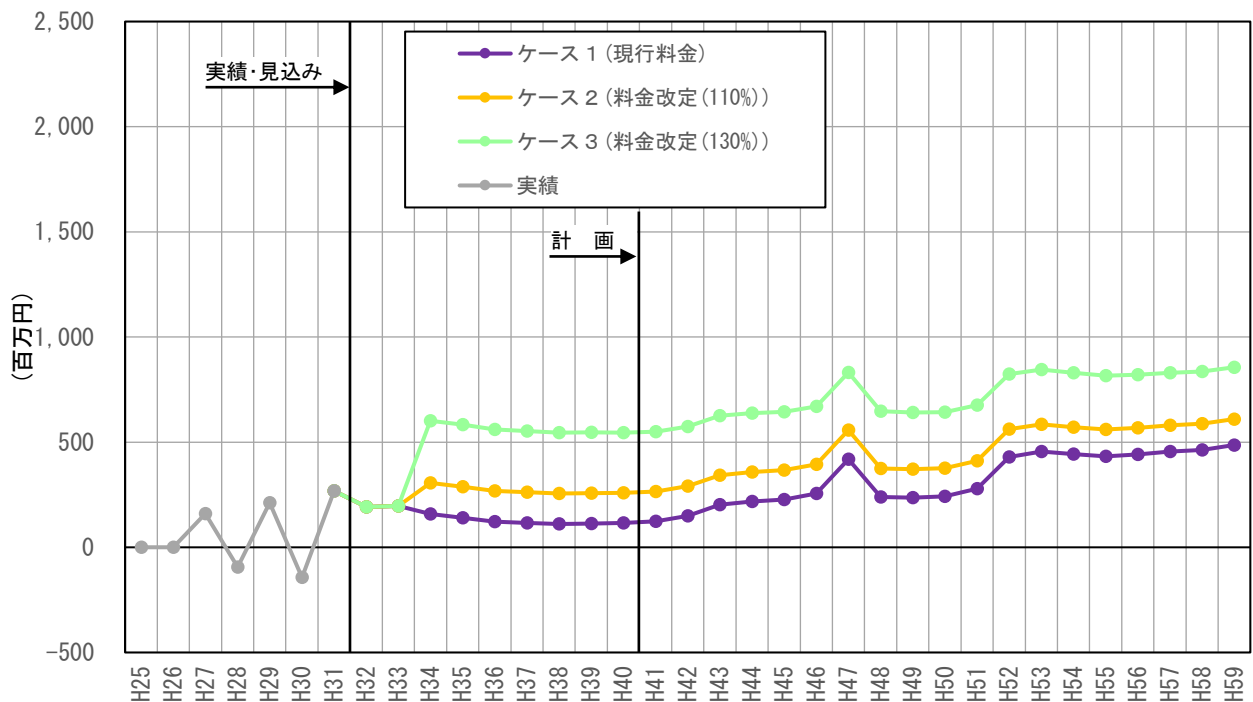


図4.9 キャッシュフロー見込みの比較 (百万円)

(10) 資金期末残高

純利益および損益勘定留保資金の確保と、建設改良費の実績からの相対的な減少によって資金期末残高は増加の見込みとなる。

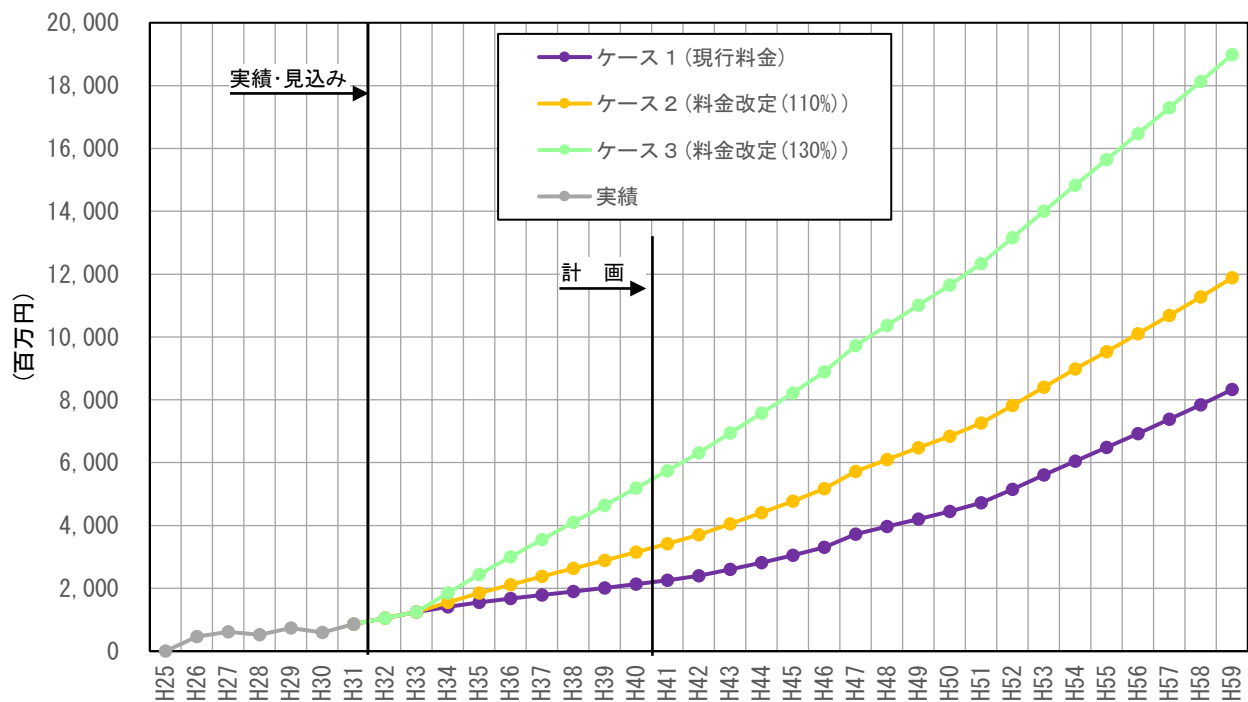


図4.10 資金期末残高の比較 (百万円)

3) 財政シミュレーションの結果(各ケース)

(1) ケース1 【現行料金】

現行料金据え置き、かつ他会計補助金(出資金)を今後も同程度見込むとした場合の今後30年間の財政シミュレーションである。

財政シミュレーションの詳細は表4.1に示している。

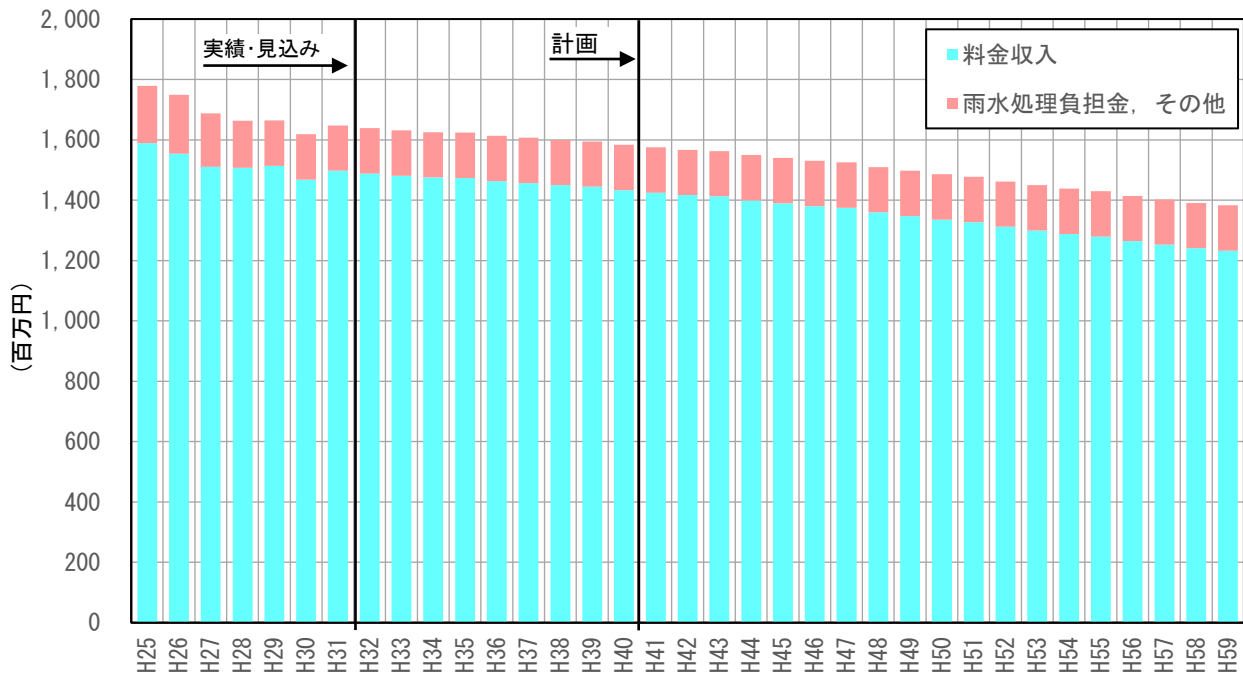


図4.11 営業収益 (百万円) 【ケース1】

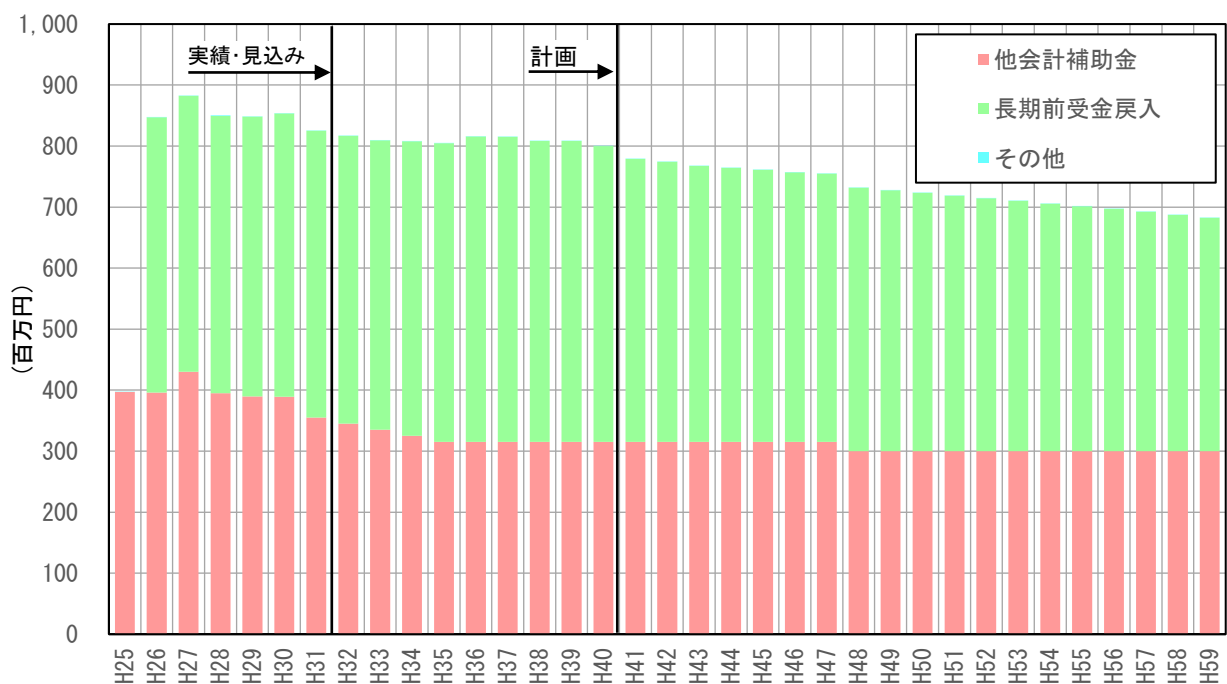


図4.12 営業外収益 (百万円) 【ケース1】

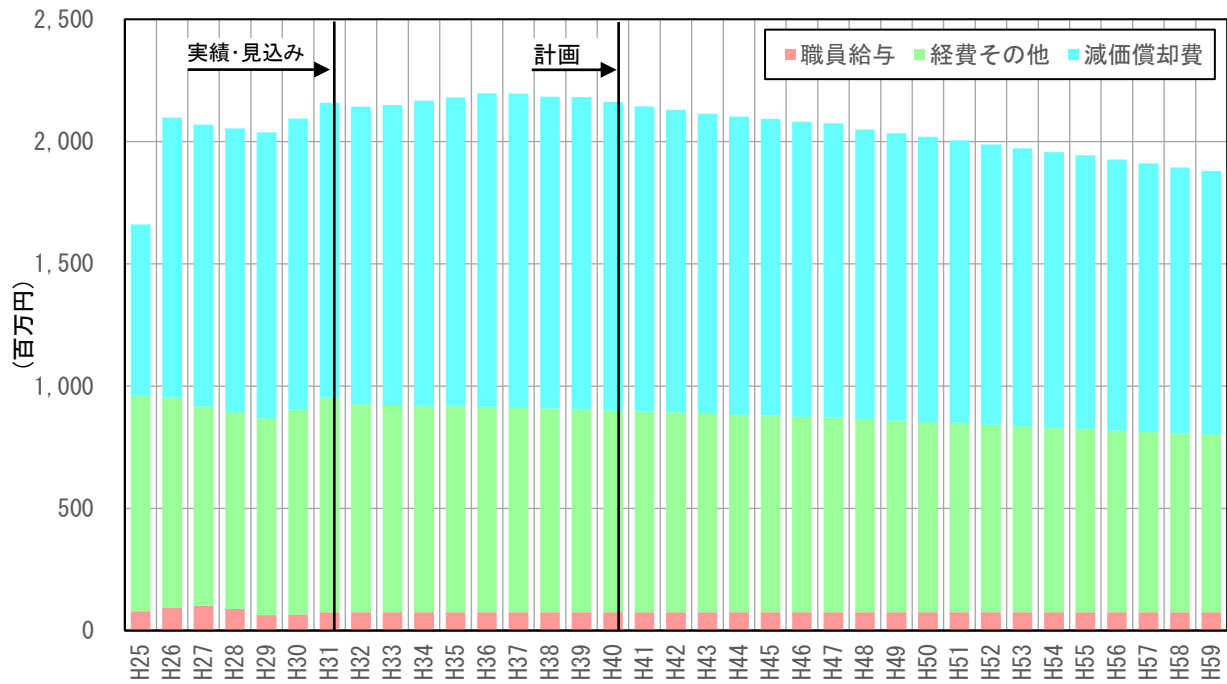


図4.13 営業費用 (百万円) 【ケース1】

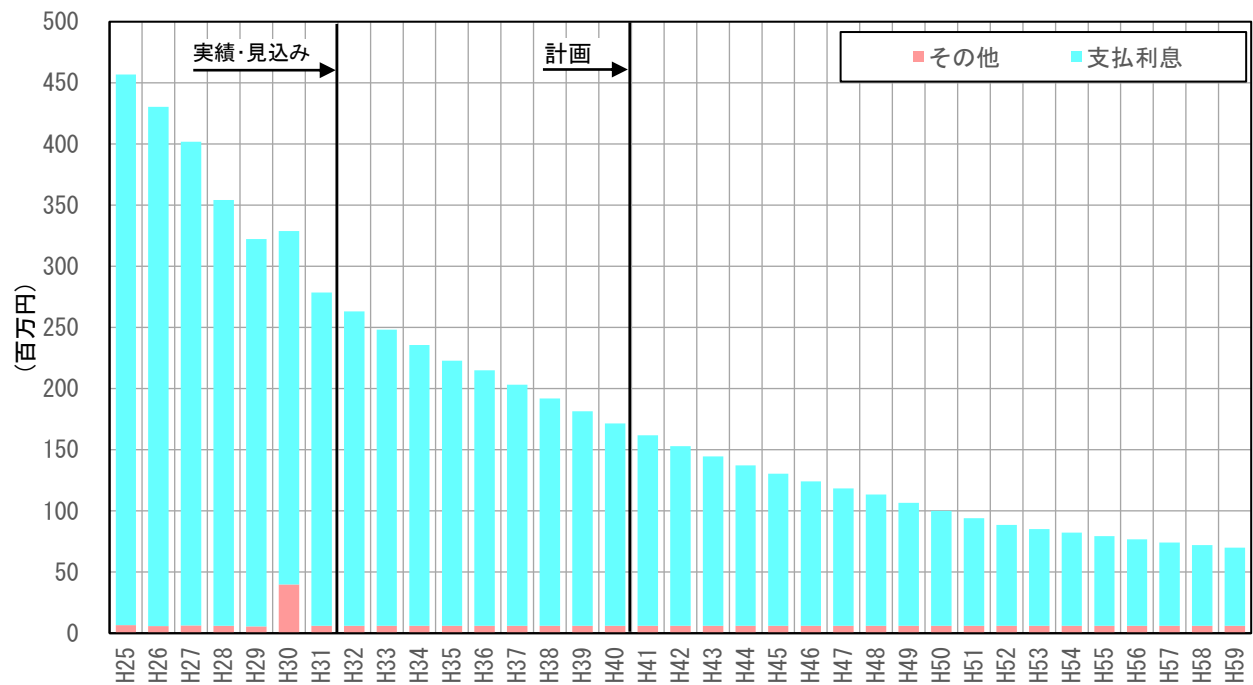


図4.14 営業外費用 (百万円) 【ケース1】

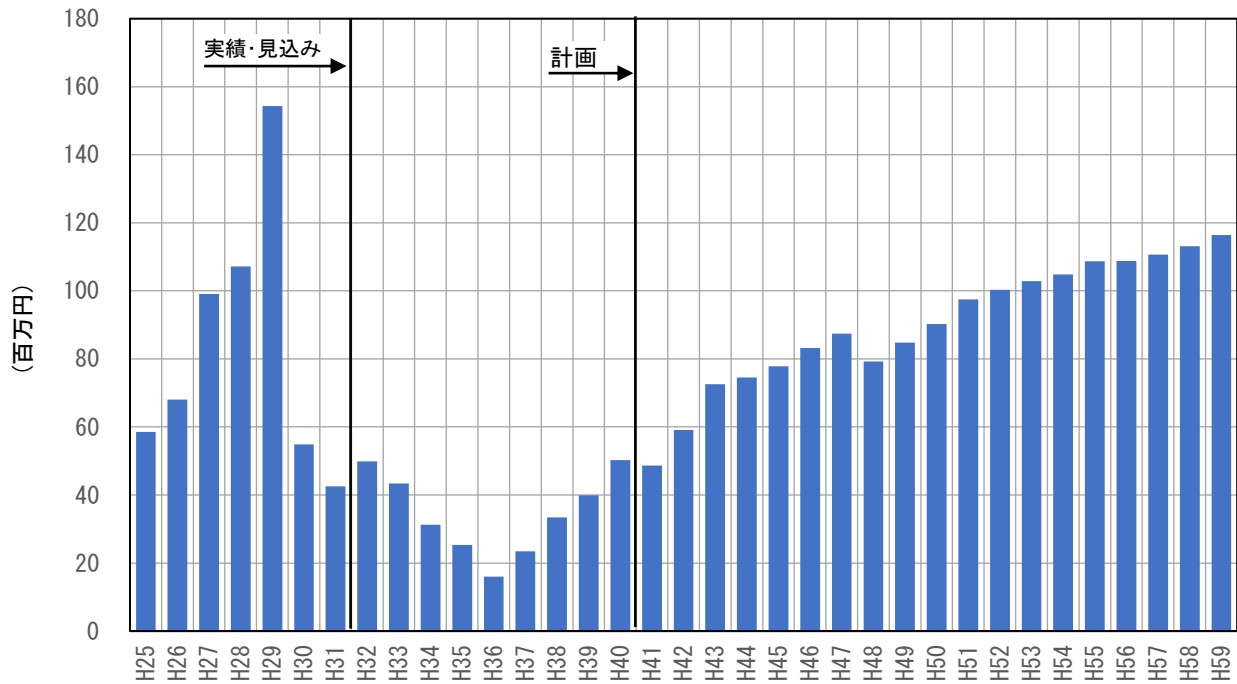


図4.15 経常損益 (百万円) 【ケース1】

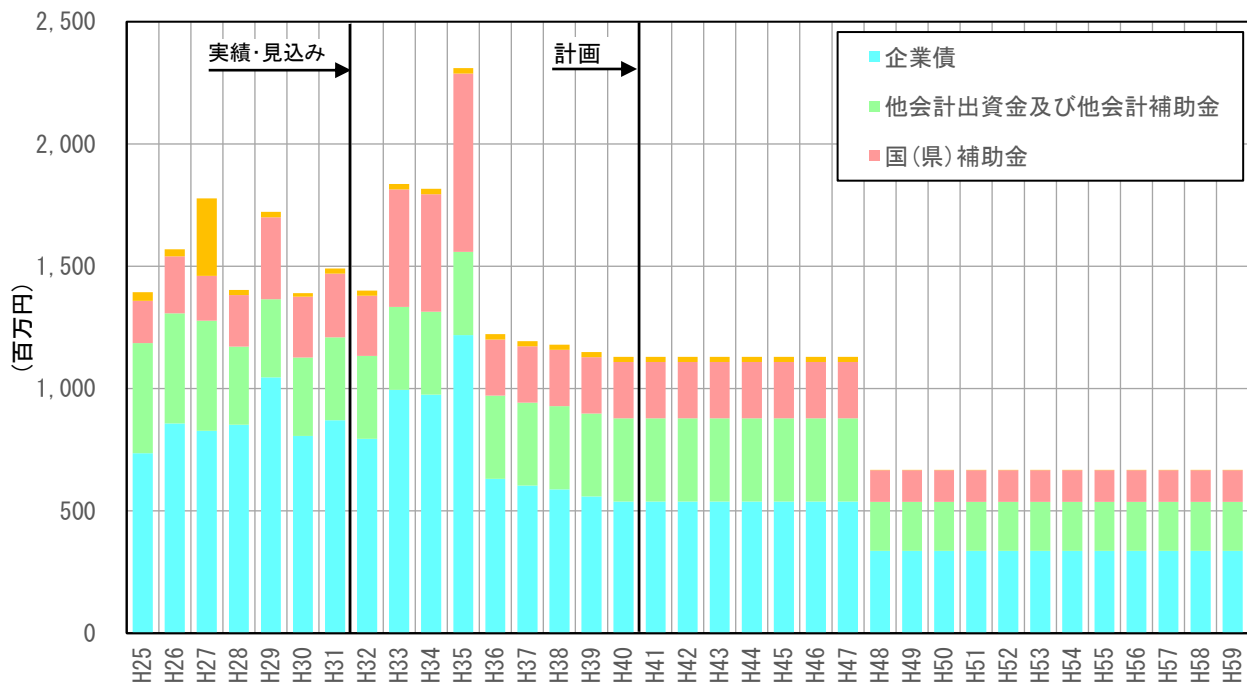


図4.16 資本的収入 (百万円) 【ケース1】

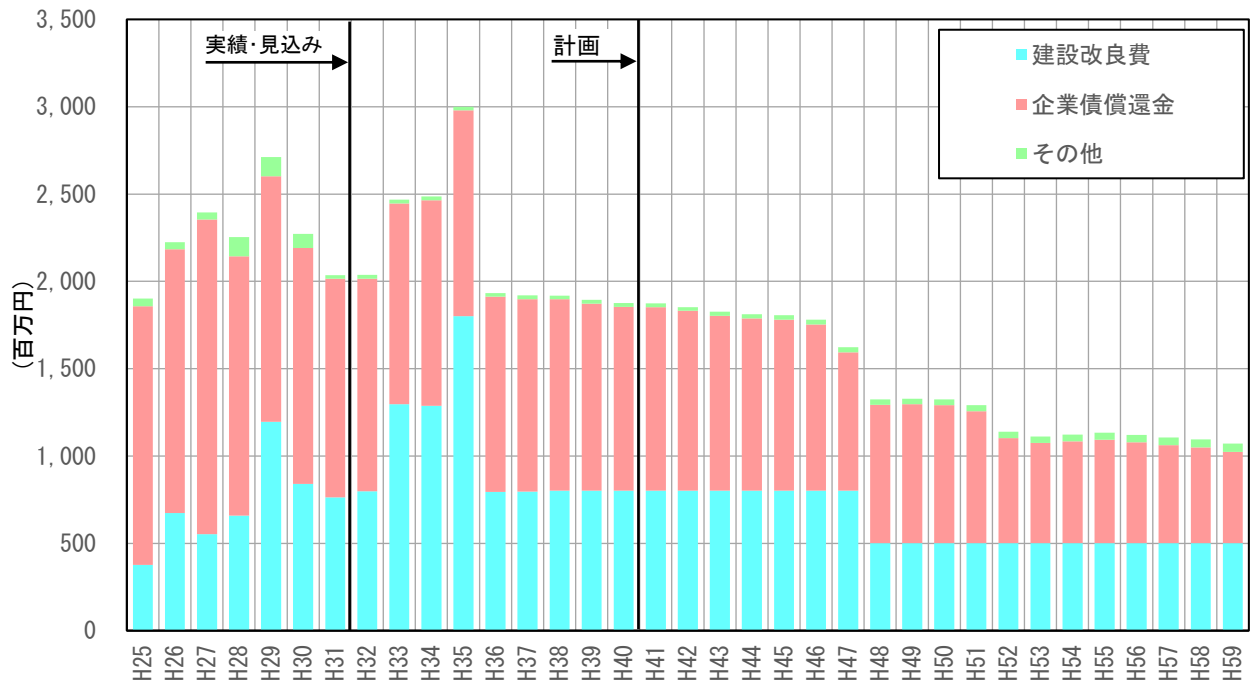


図4.17 資本的支出 (百万円) 【ケース1】

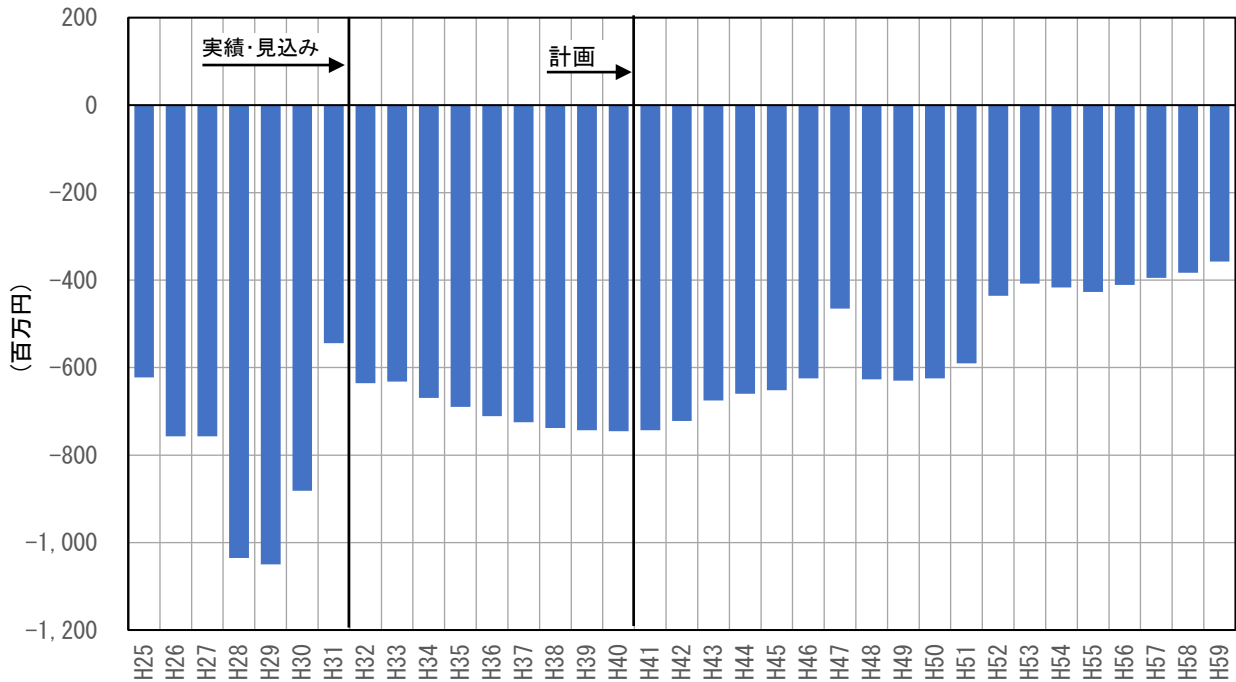


図4.18 資本的収支 (差引) (百万円) 【ケース1】

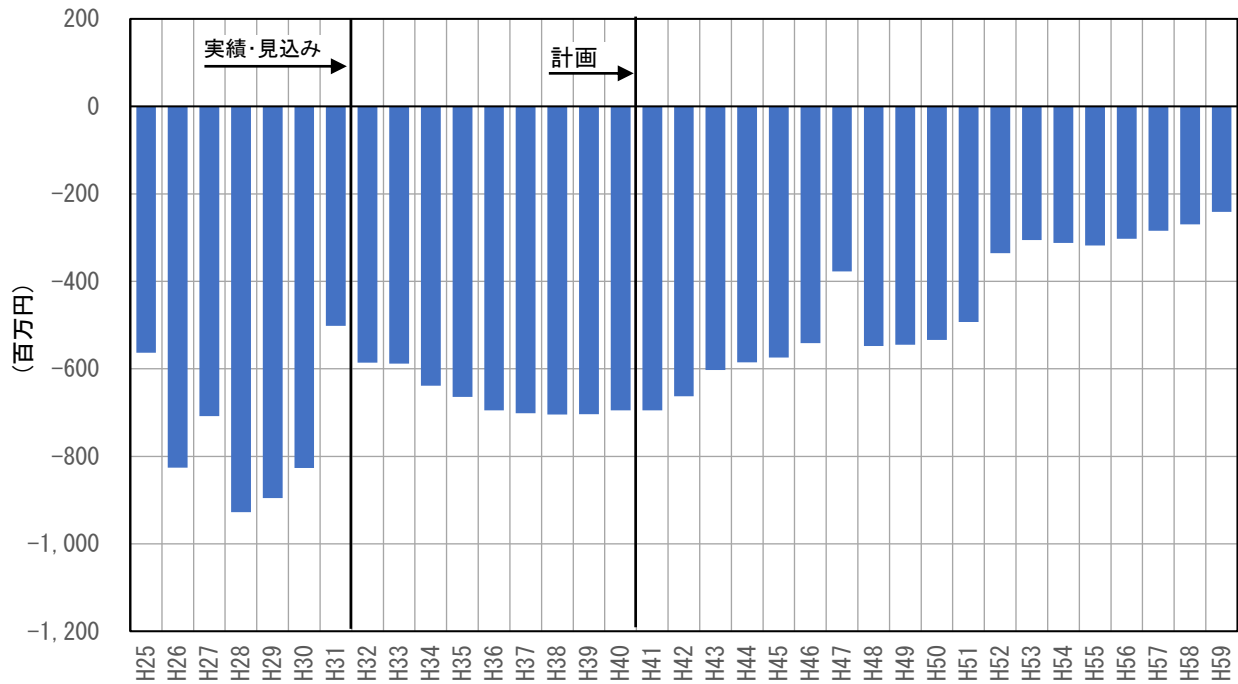


図4.19 収支再差引 (百万円) 【ケース1】

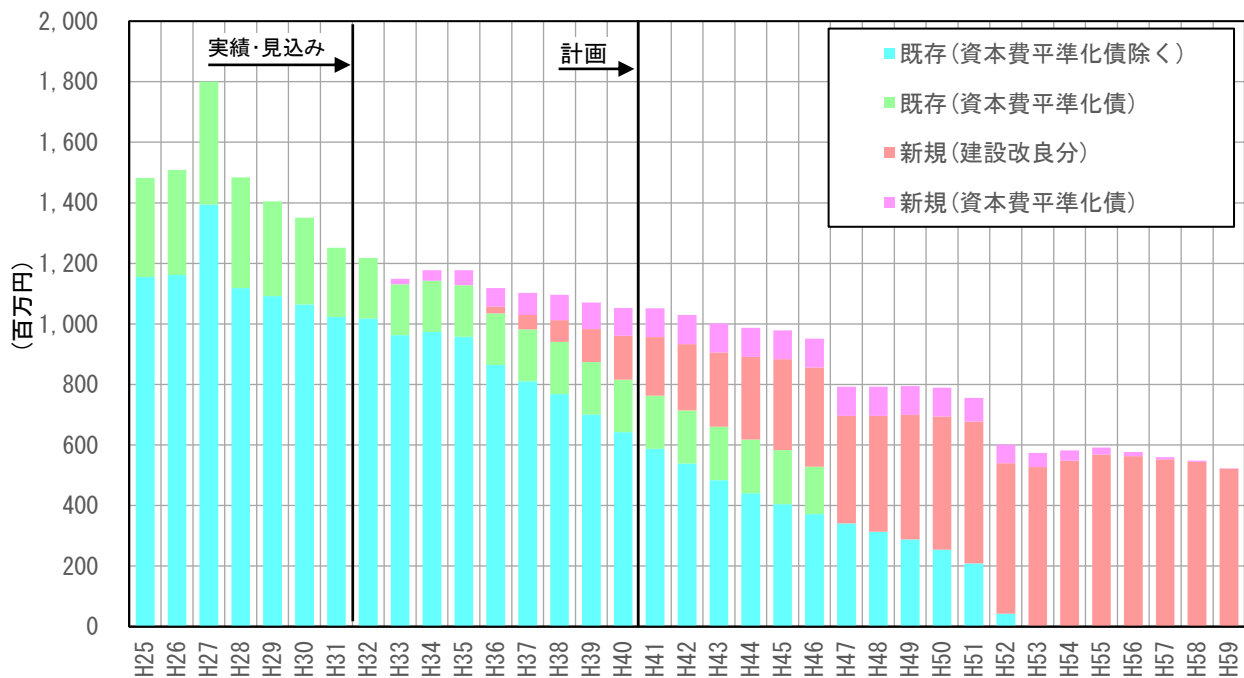


図4.20 企業債償還金 (百万円) 【ケース1】

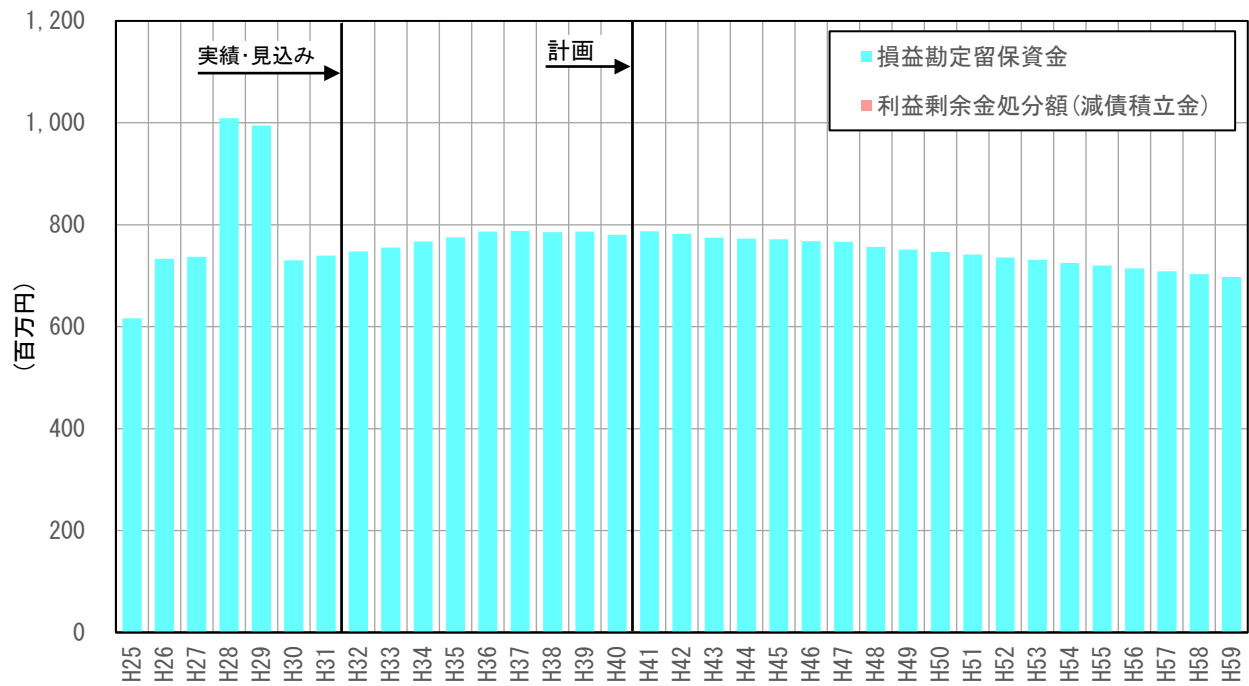


図4.21 補填財源 (百万円) 【ケース1】

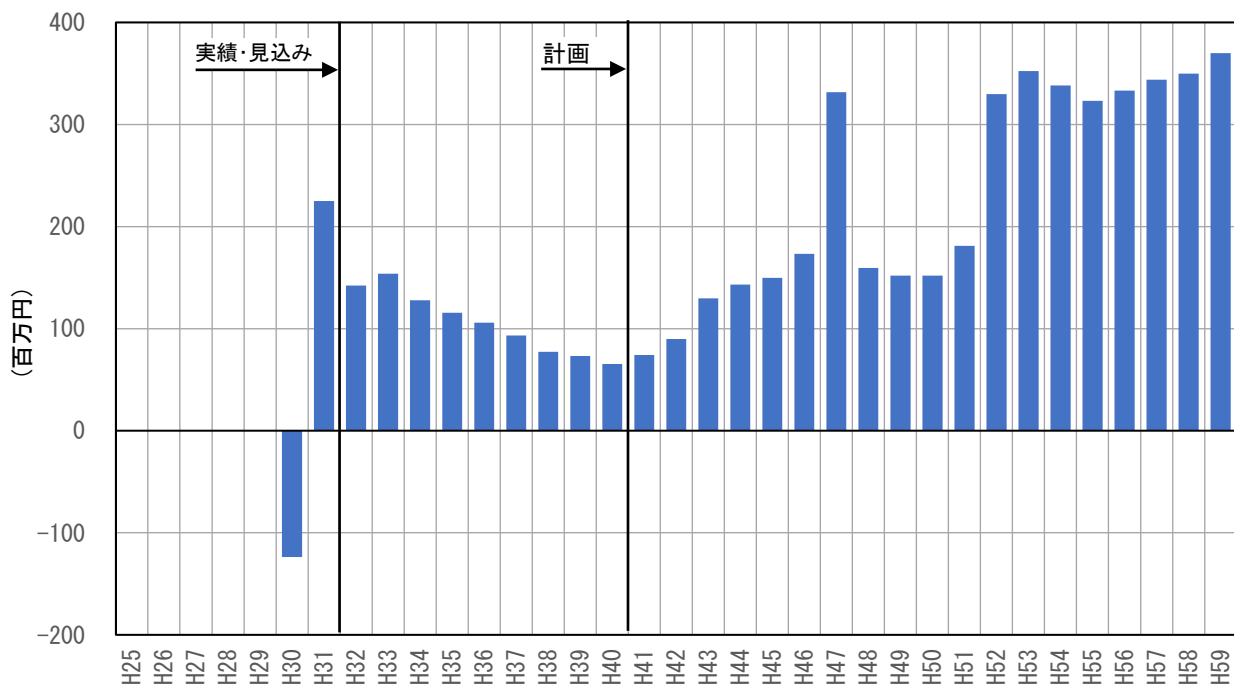


図4.22 補填財源不足額 (百万円) 【ケース1】

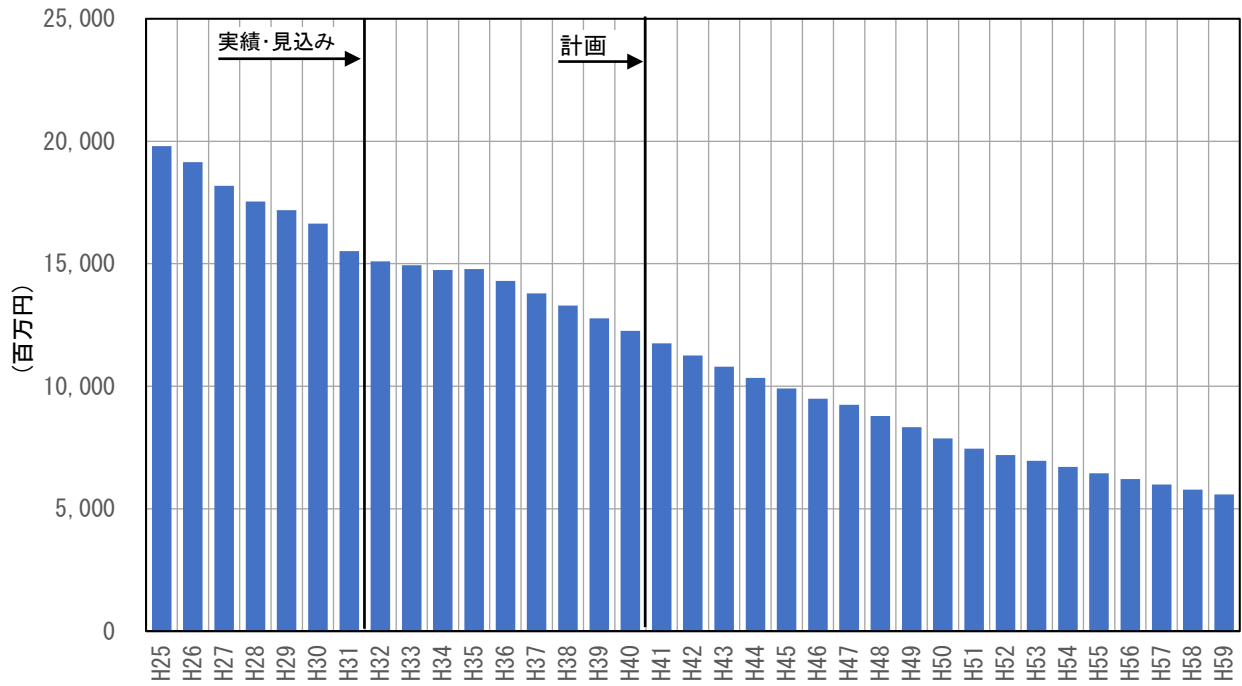


図4.23 企業債残高 (百万円) 【ケース1】

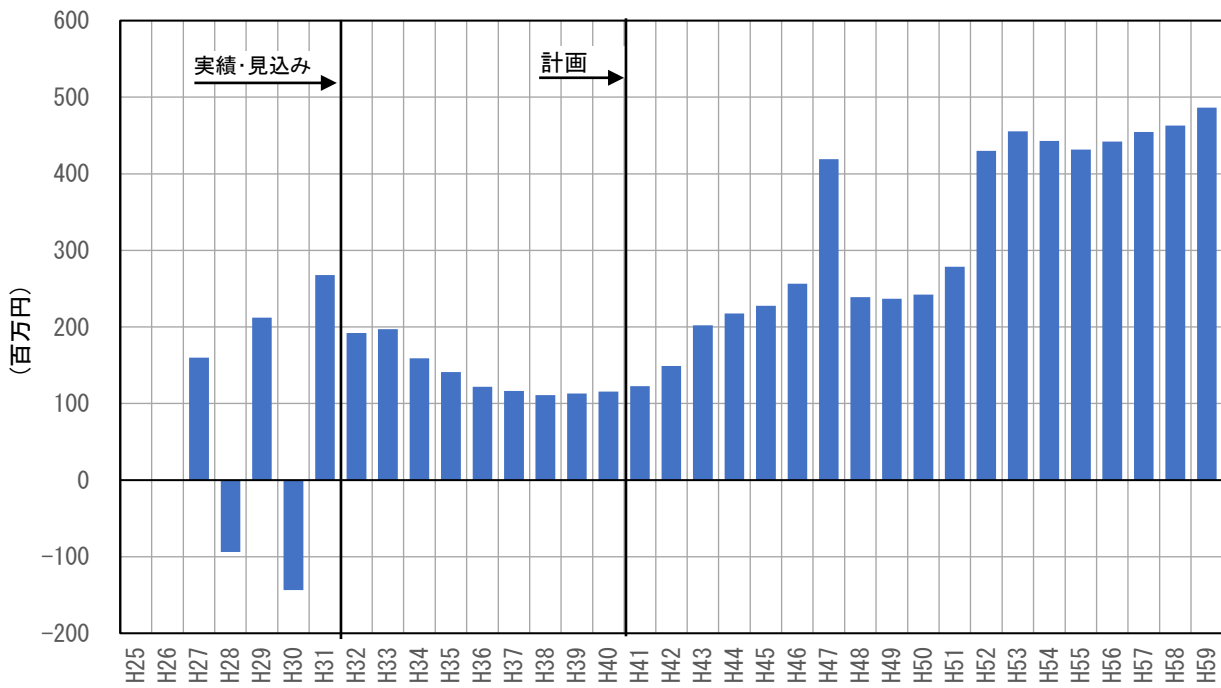


図4.24 キャッシュフロー見込み (百万円) 【ケース1】

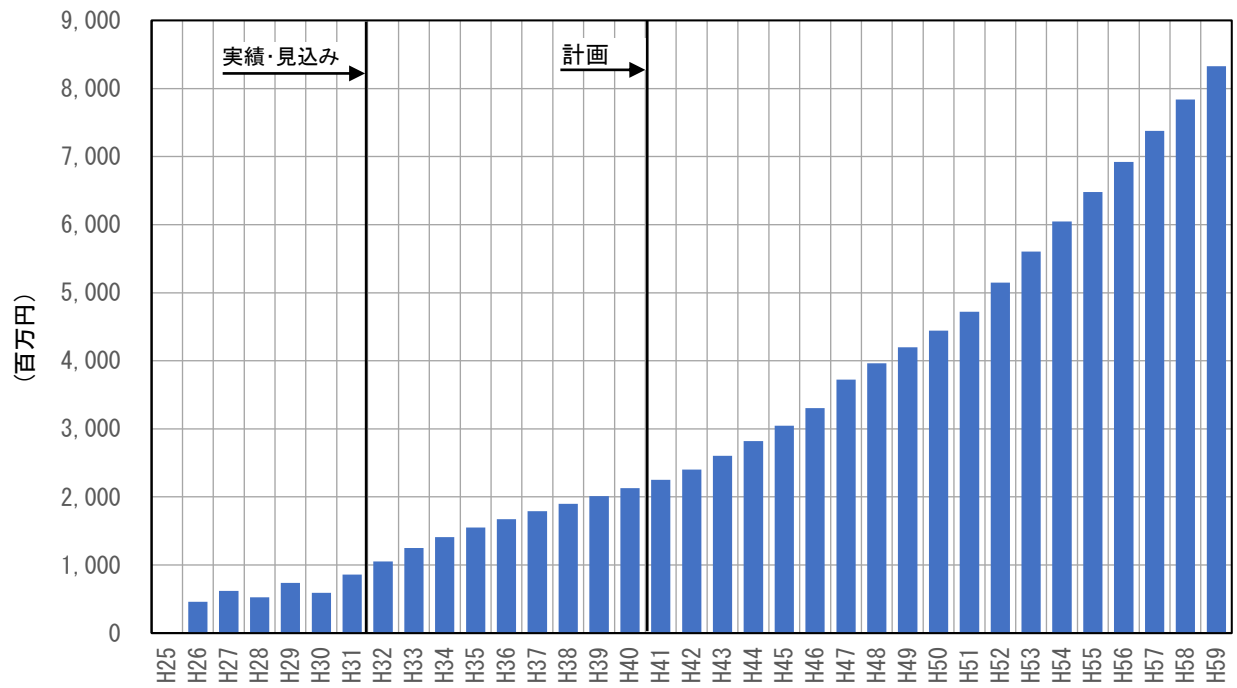


図4.25 資金期末残高 (百万円) 【ケース1】

(2) ケース2 【平成34年度より料金改定(+10%)】

料金改定を平成34年度、改定率を近年の他事業体での改定率の平均である110%(現行から+10%)とした場合の今後30年間の財政シミュレーションである。

財政シミュレーションの詳細は表4.2に示している。

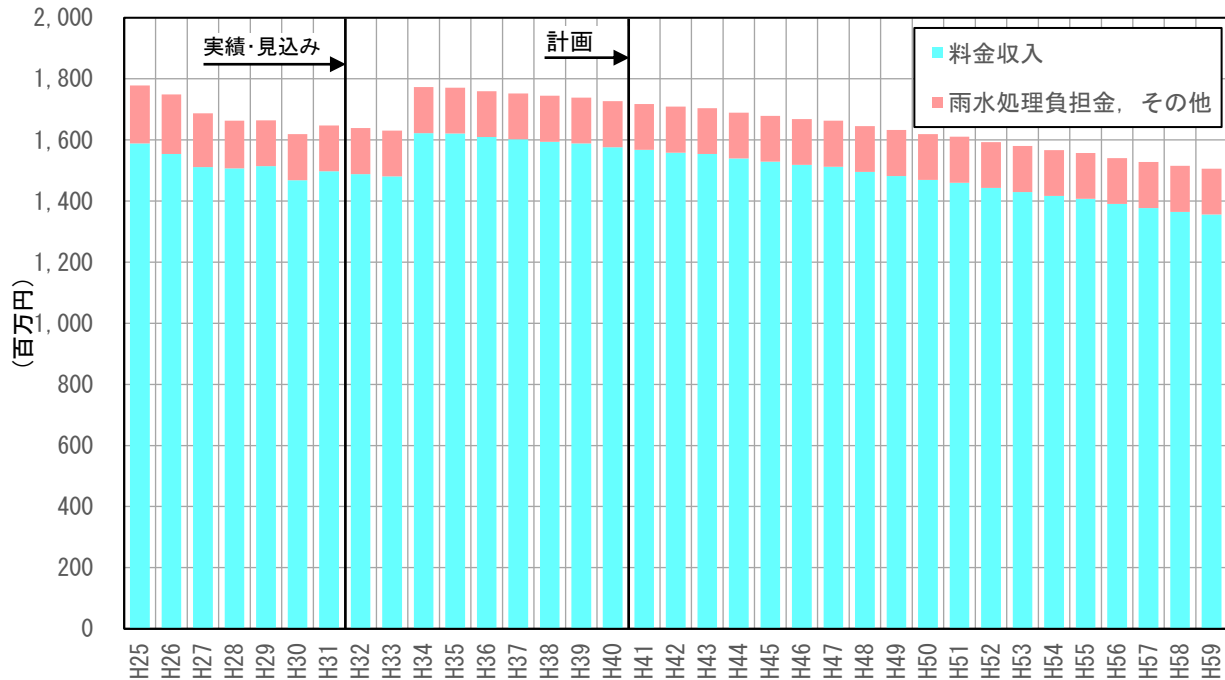


図4.26 営業収益 (百万円) 【ケース2】

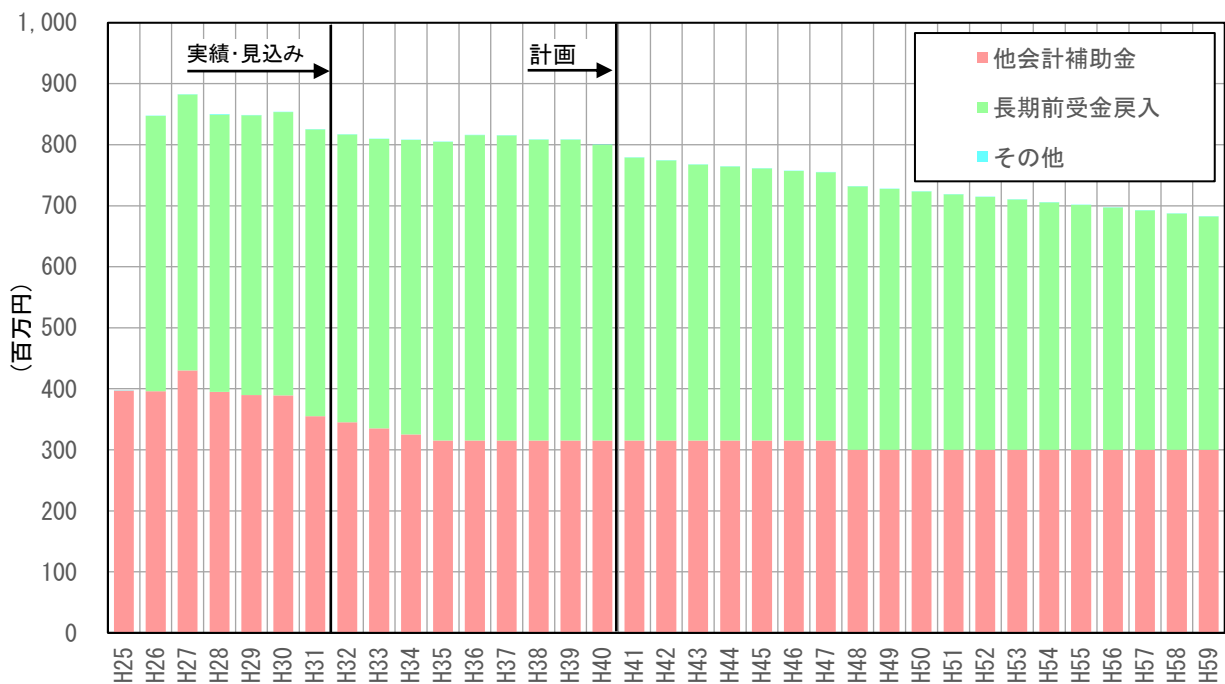


図4.27 営業外収益 (百万円) 【ケース2】

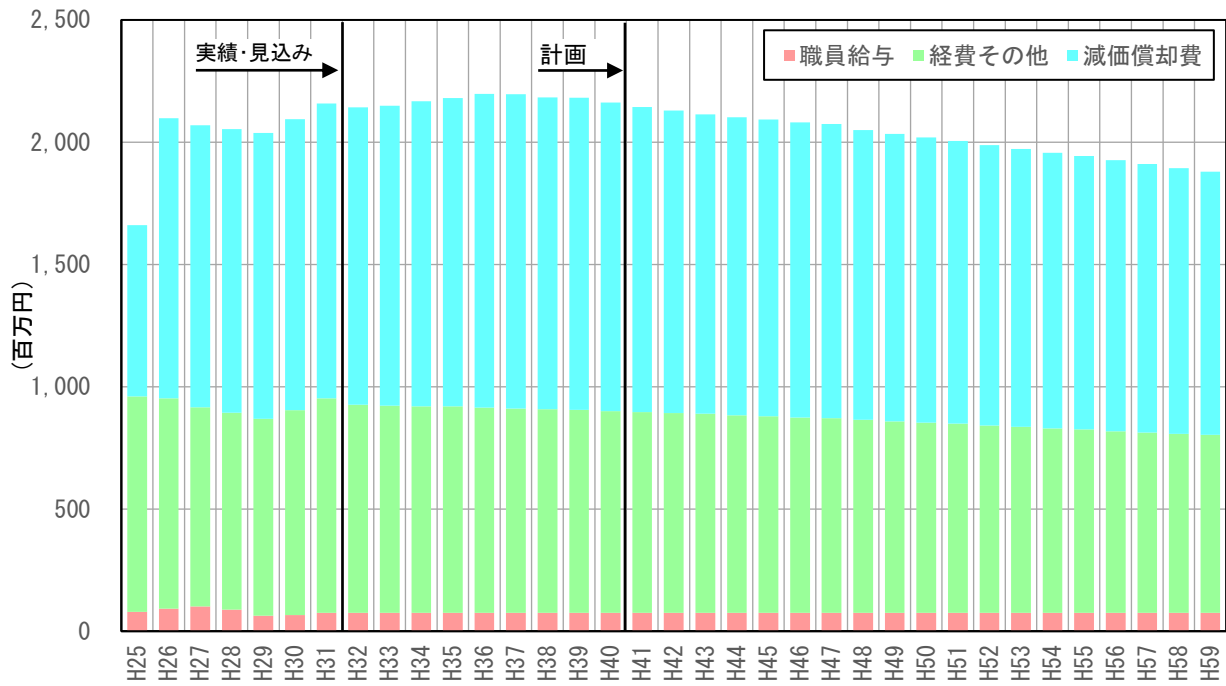


図4.28 営業費用 (百万円) 【ケース 2】

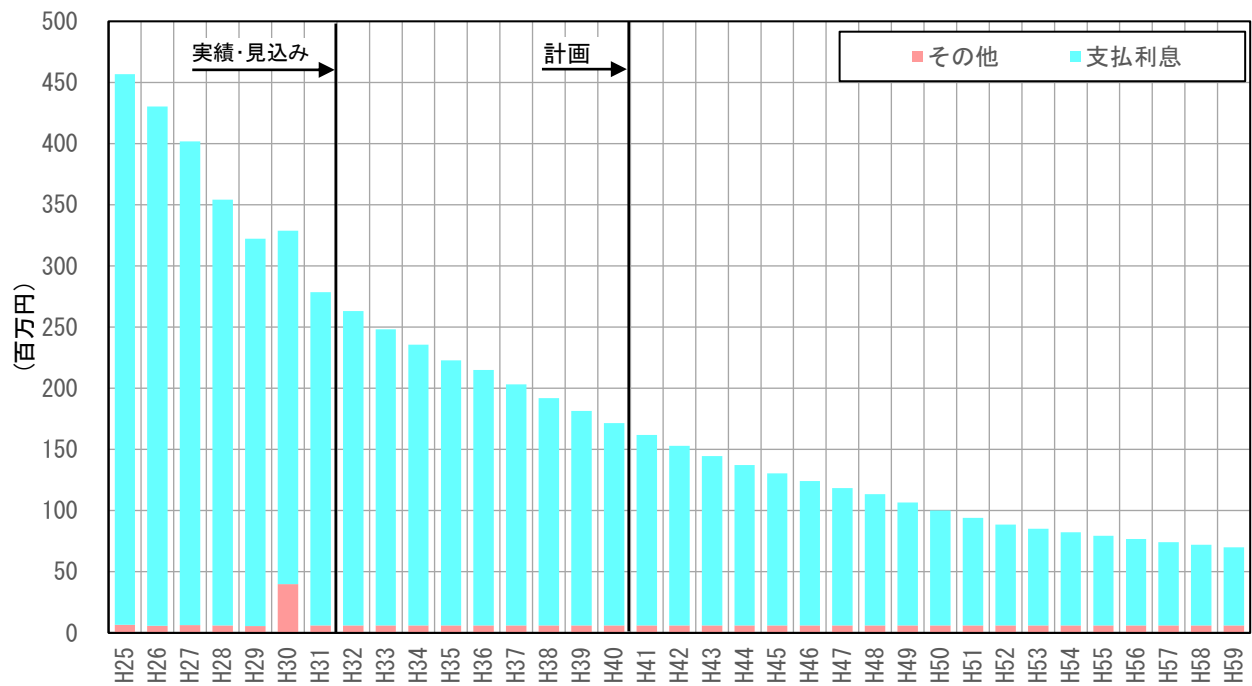


図4.29 営業外費用 (百万円) 【ケース 2】

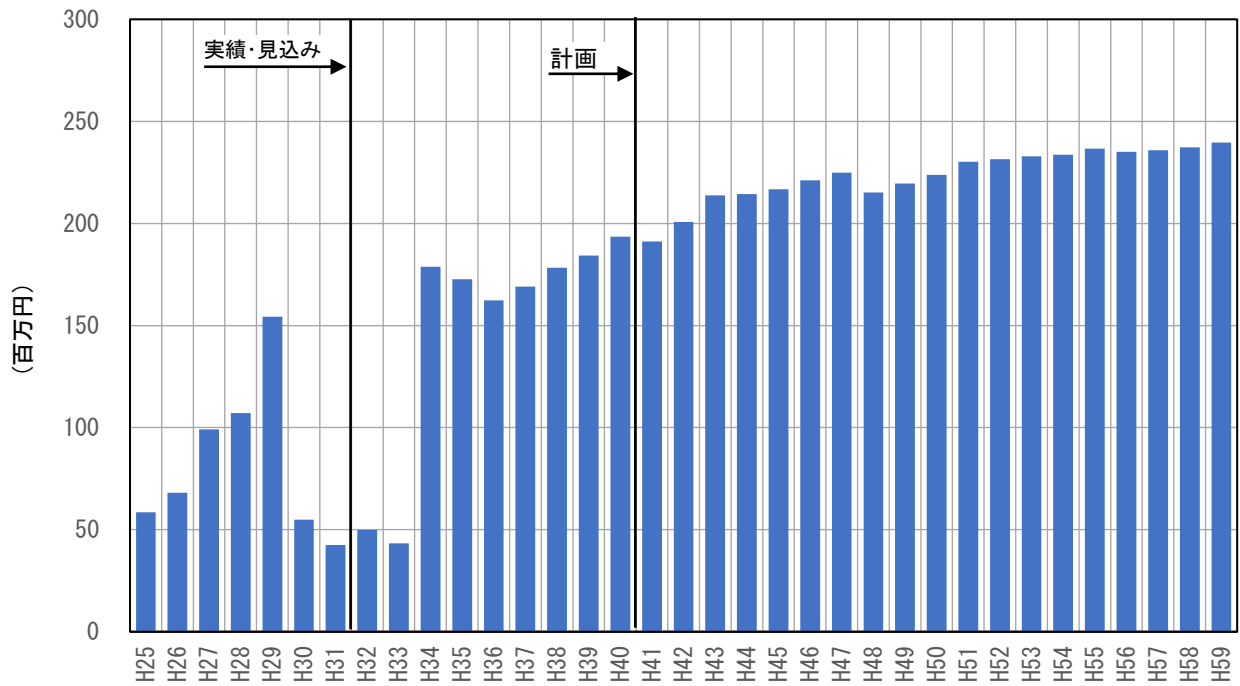


図4.30 経常損益 (百万円) 【ケース2】

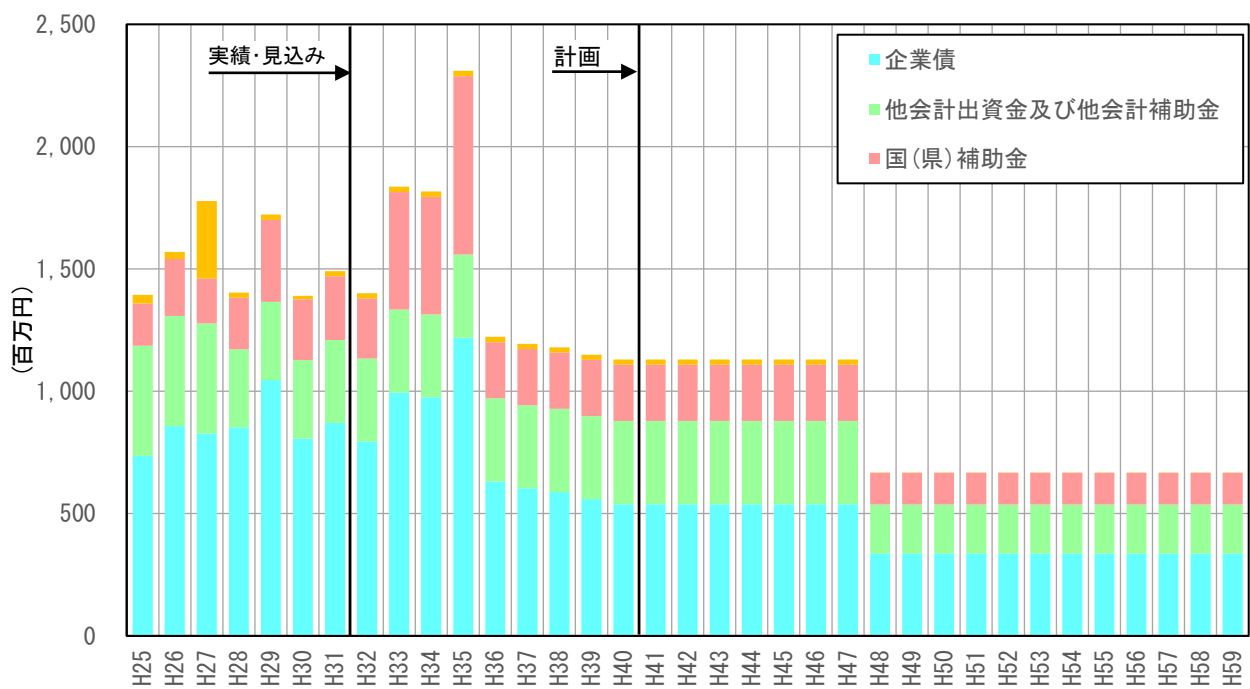


図4.31 資本的収入 (百万円) 【ケース2】

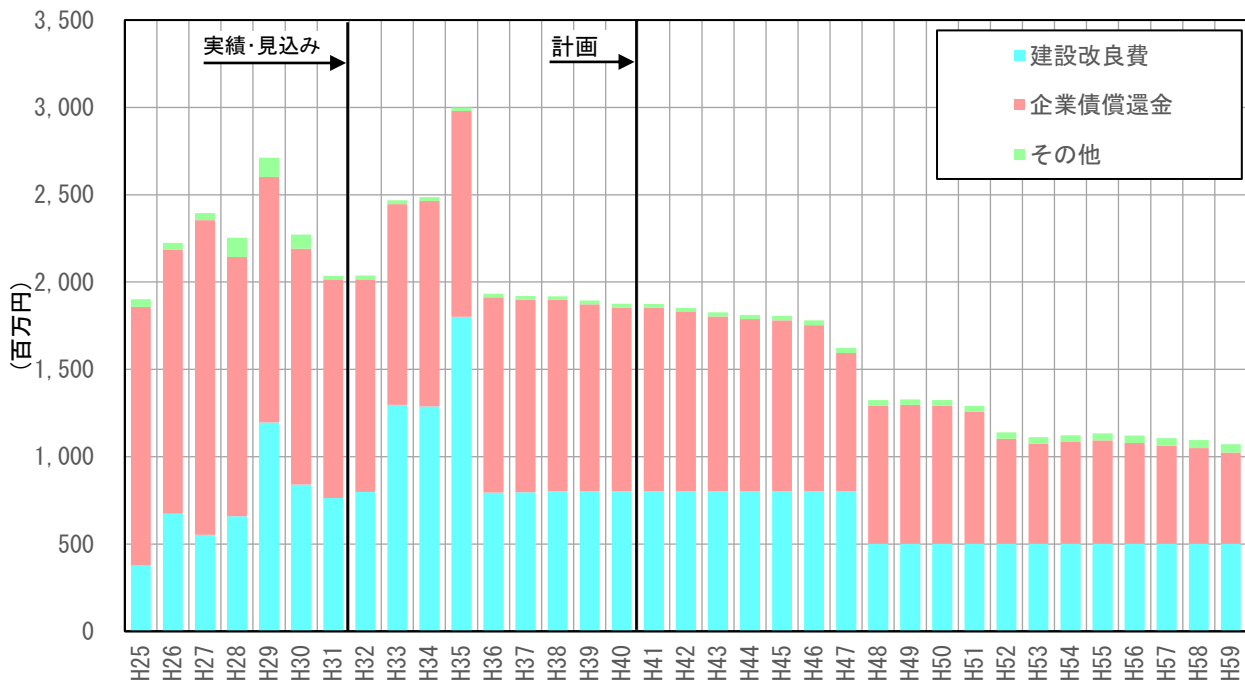


図4.32 資本的支出（百万円）【ケース2】

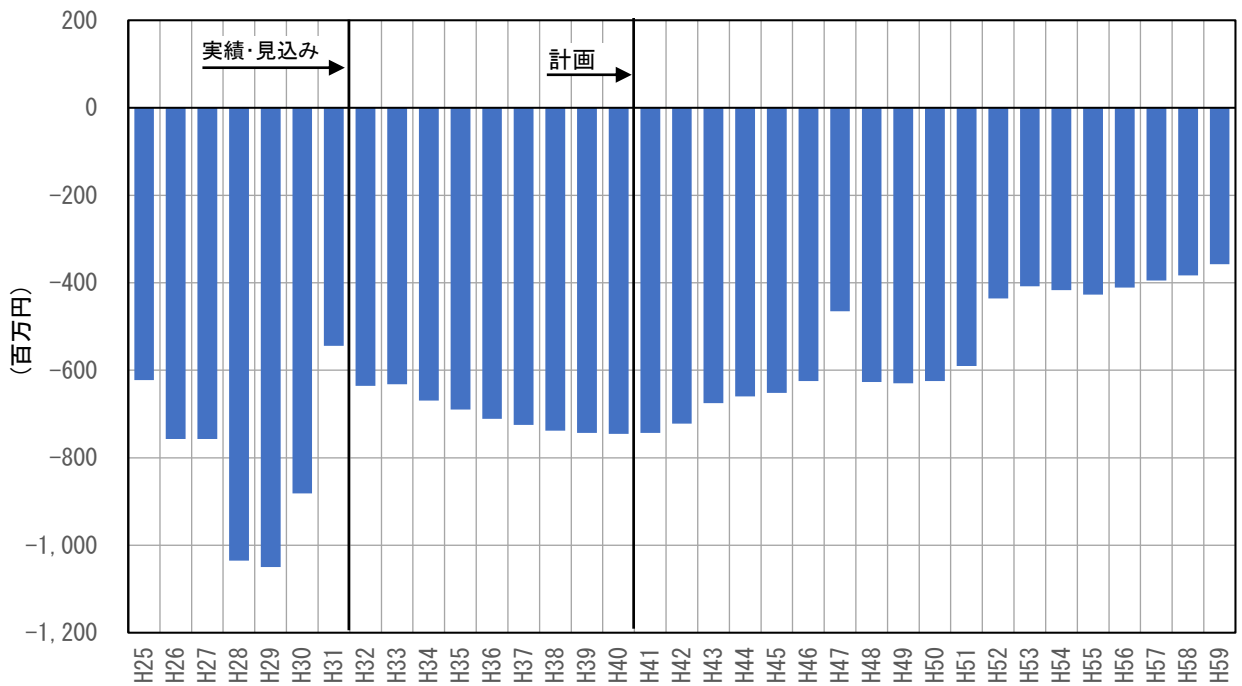


図4.33 資本的収支（差引）（百万円）【ケース2】

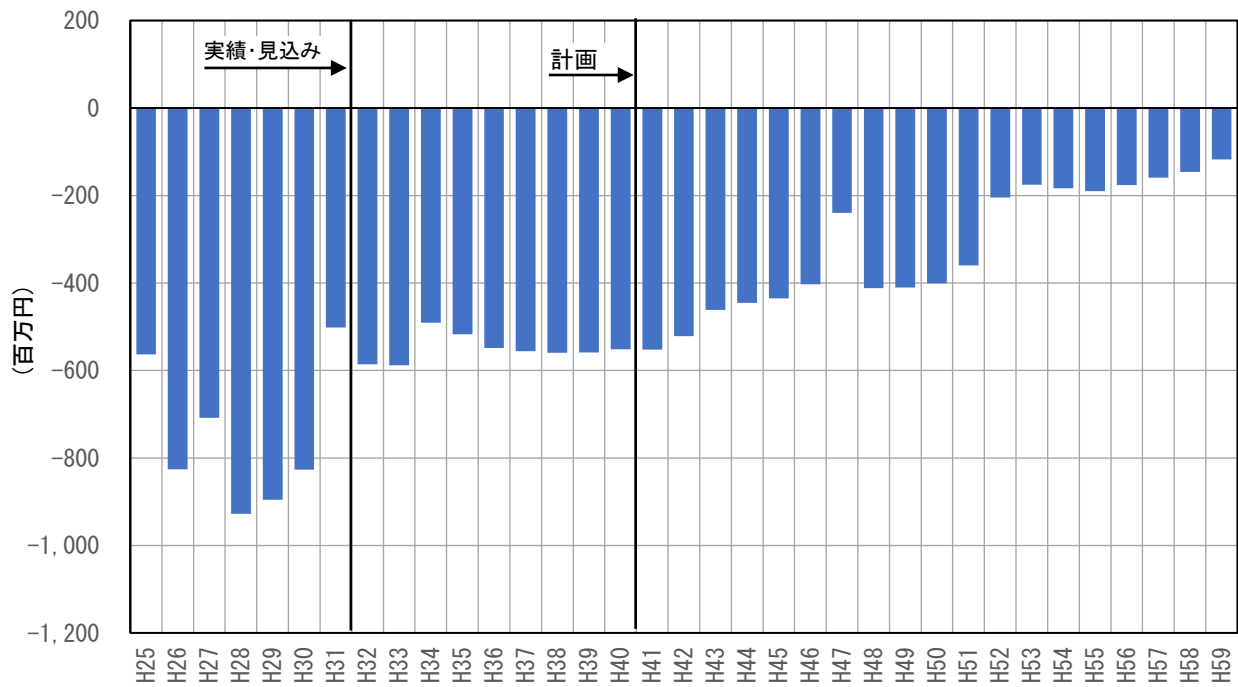


図4.34 収支再差引 (百万円) 【ケース2】

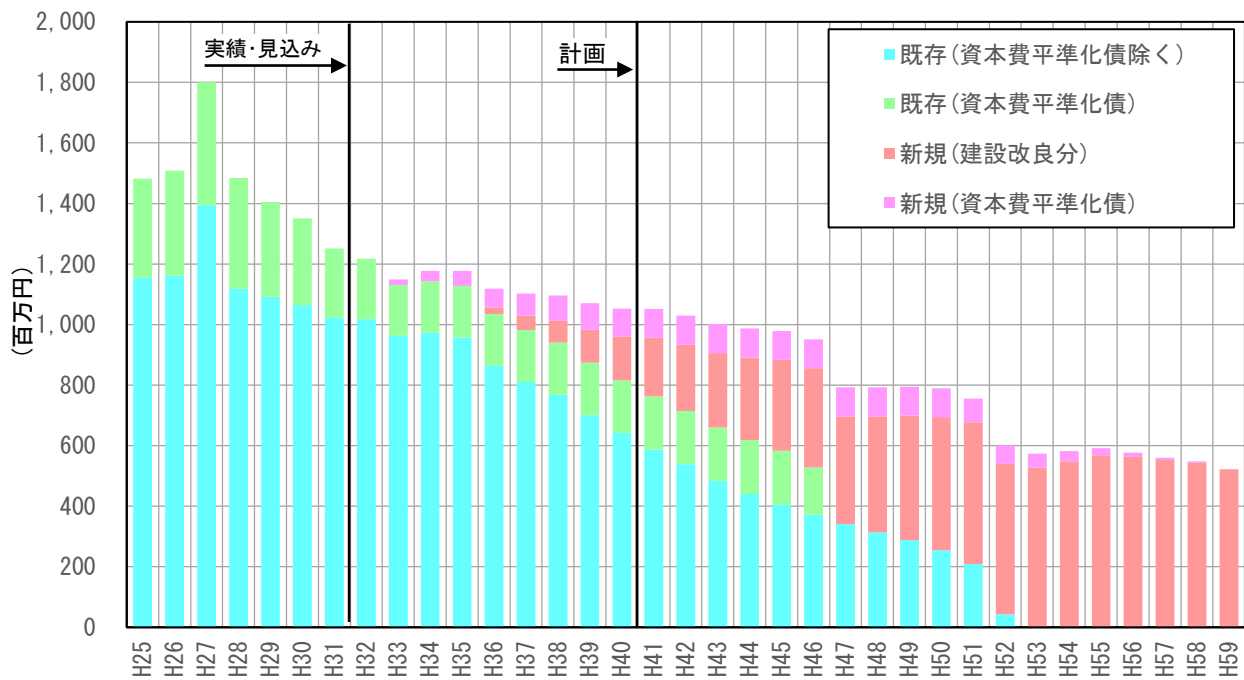


図4.35 企業債償還金 (百万円) 【ケース2】

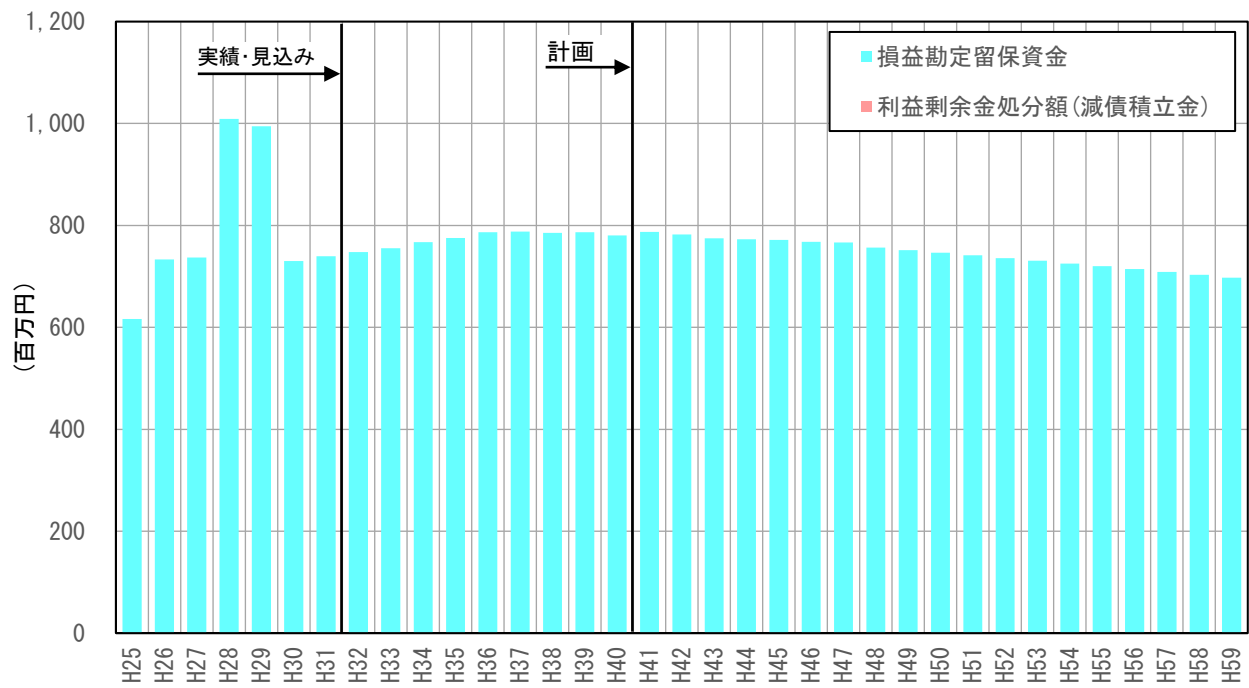


図4.36 補填財源 (百万円) 【ケース 2】

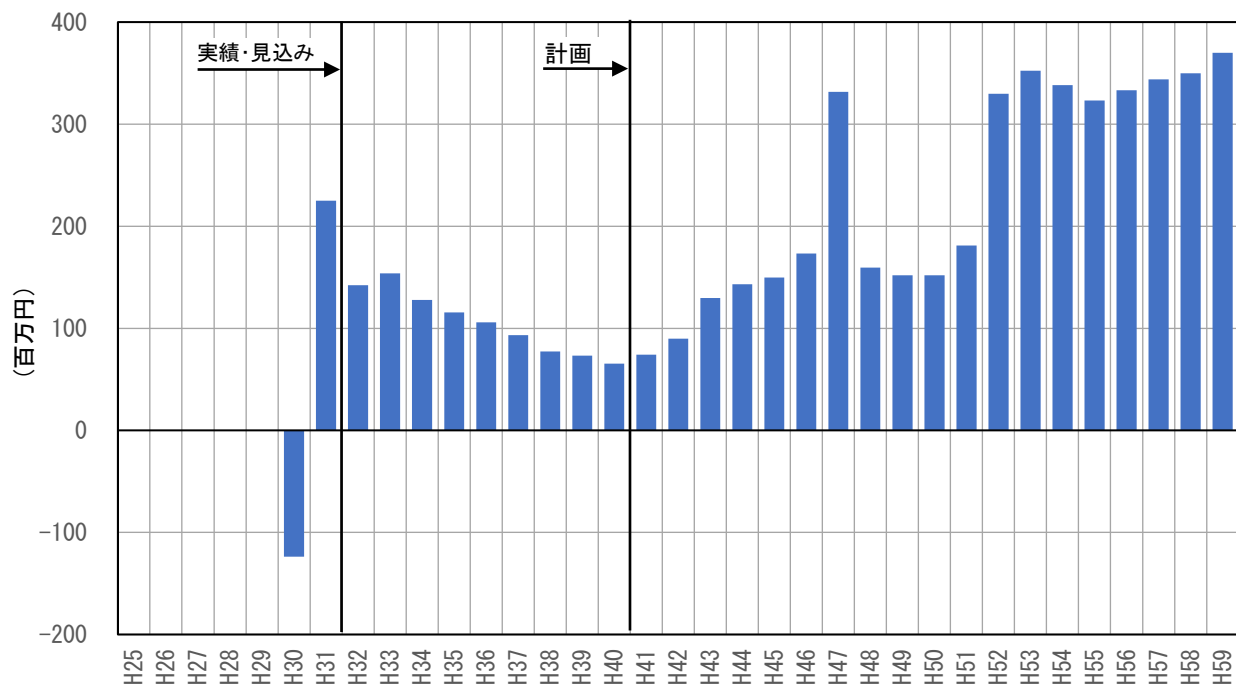


図4.37 補填財源不足額 (百万円) 【ケース 2】

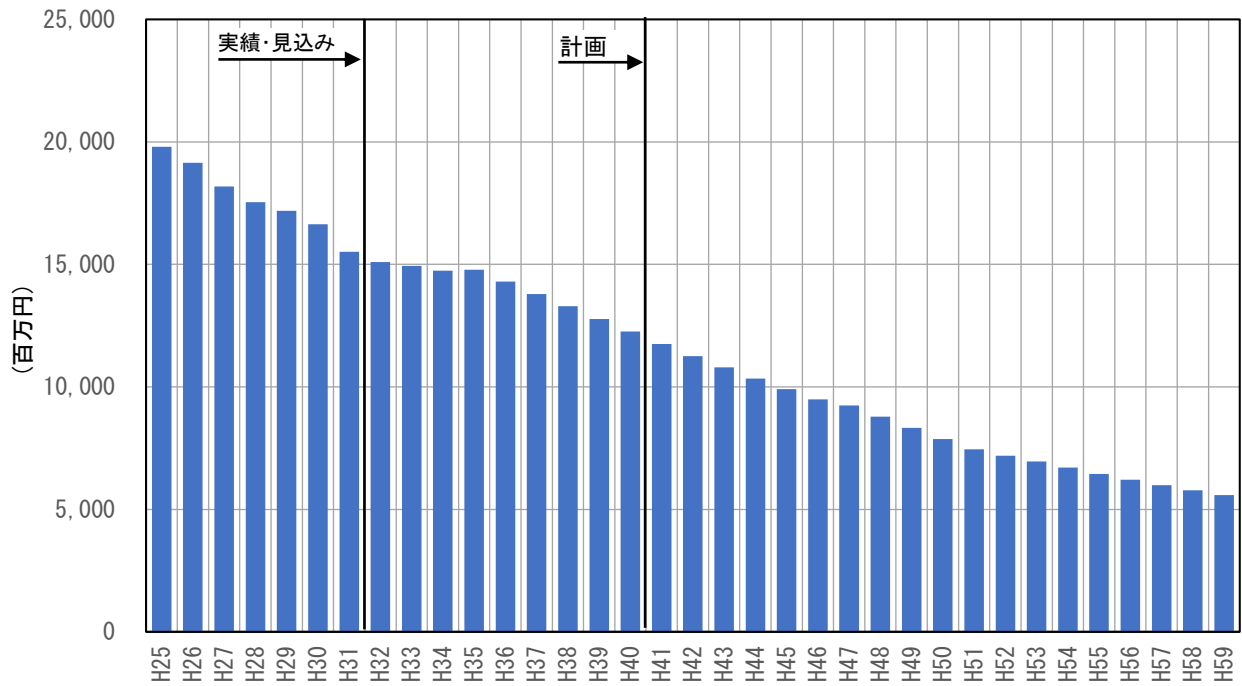


図4.38 企業債残高 (百万円) 【ケース2】

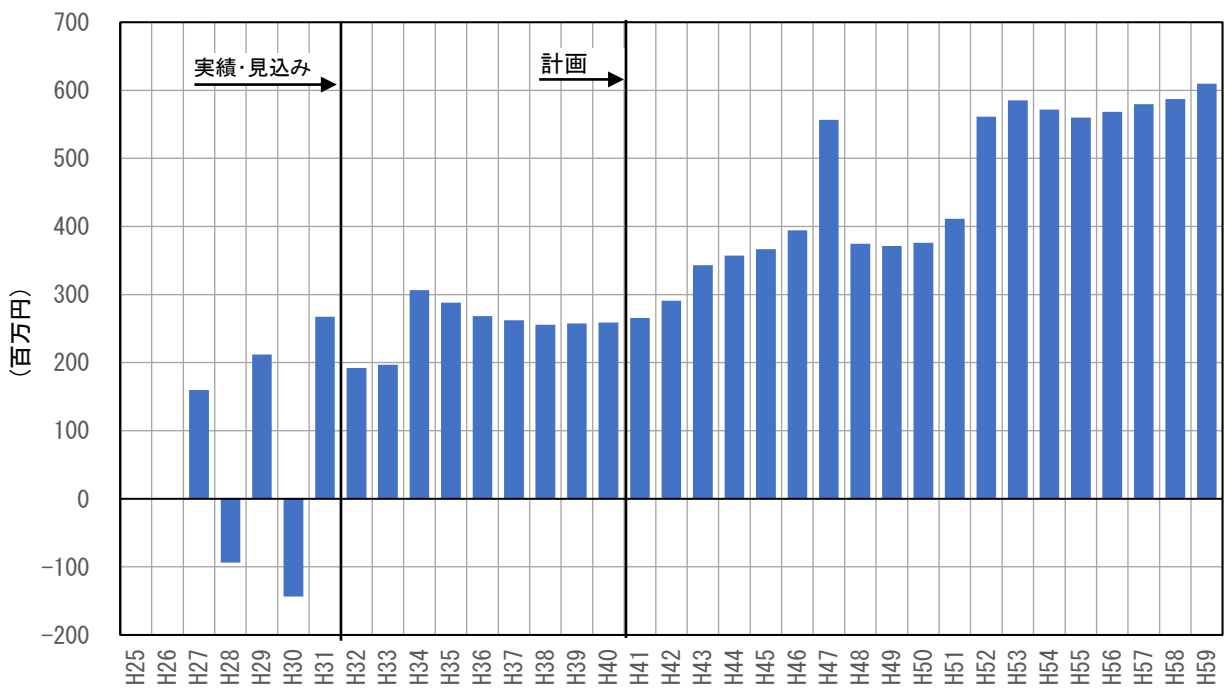


図4.39 キャッシュフロー見込み (百万円) 【ケース2】

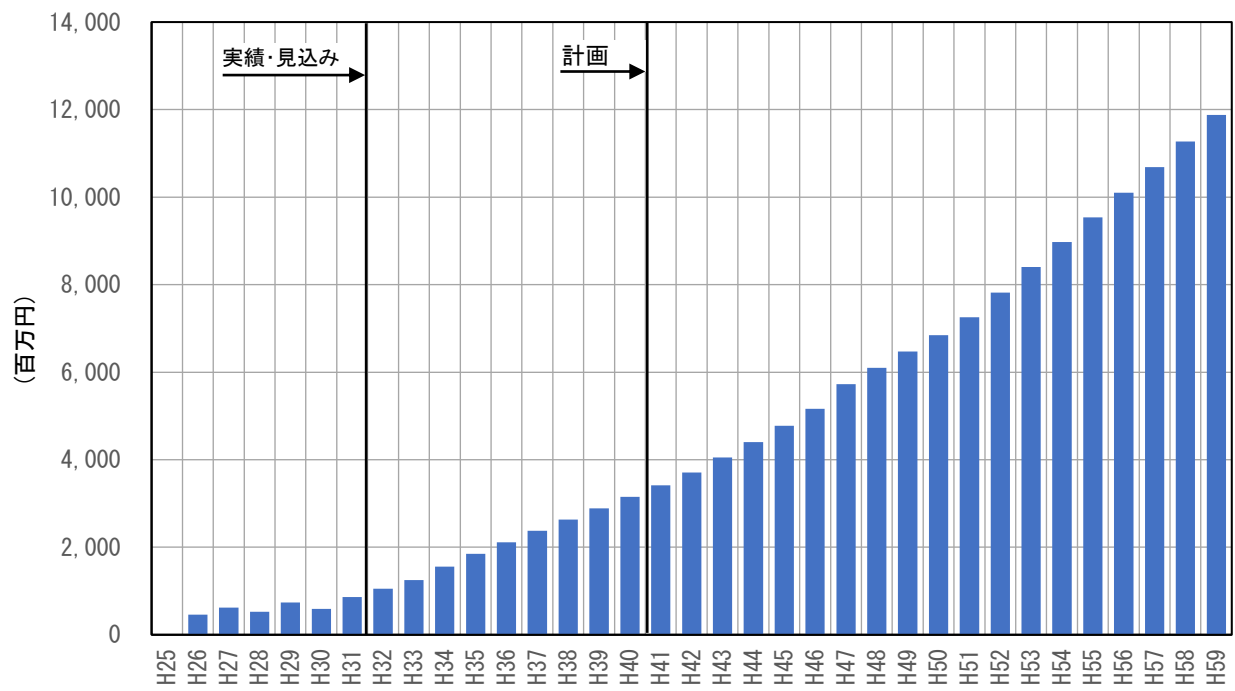


図4.40 資金期末残高 (百万円) 【ケース2】

(3) ケース3 【平成34年度より料金改定(+30%)】

料金改定を平成34年度、改定率を近年の他事業体での改定率の最大である130%(現行から+30%)とした場合の今後30年間の財政シミュレーションである。

財政シミュレーションの詳細は表4.3に示している。

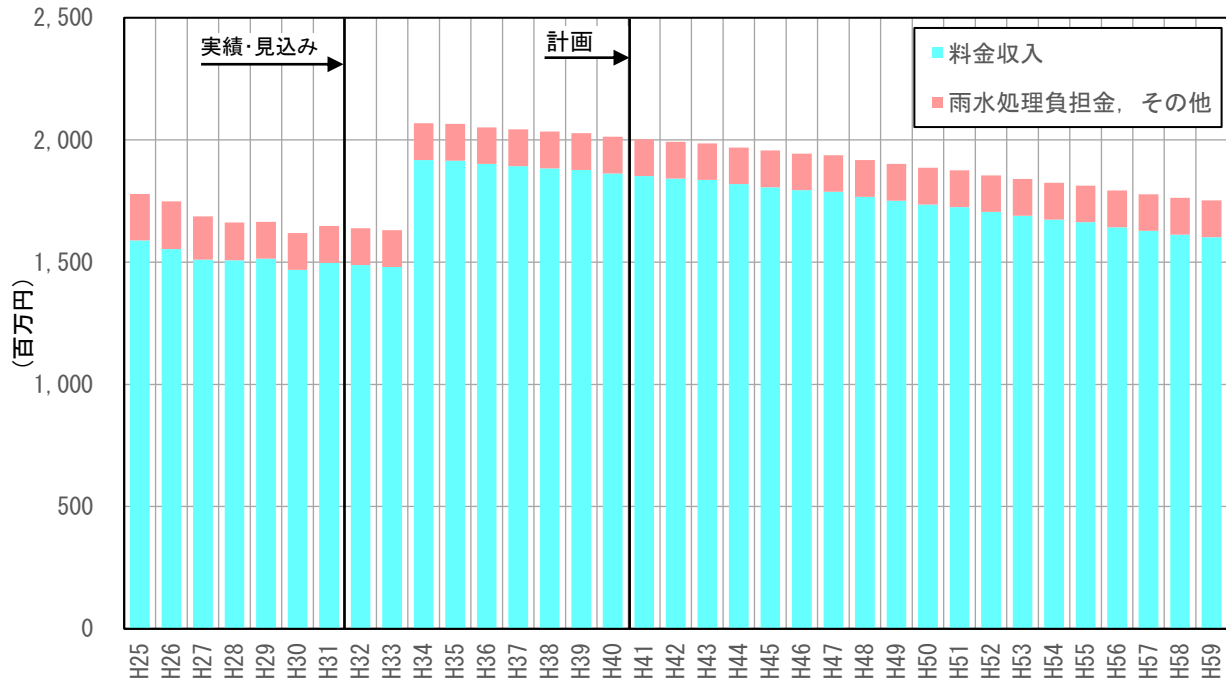


図4.41 営業収益 (百万円) 【ケース3】

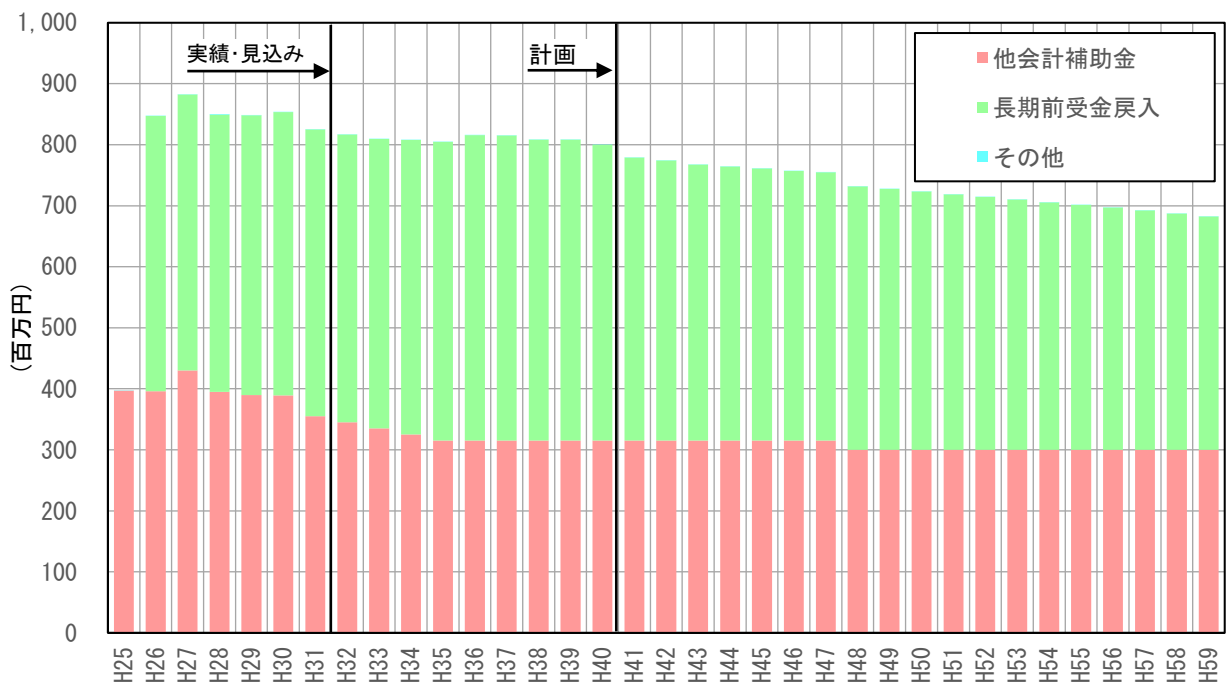


図4.42 営業外収益 (百万円) 【ケース3】

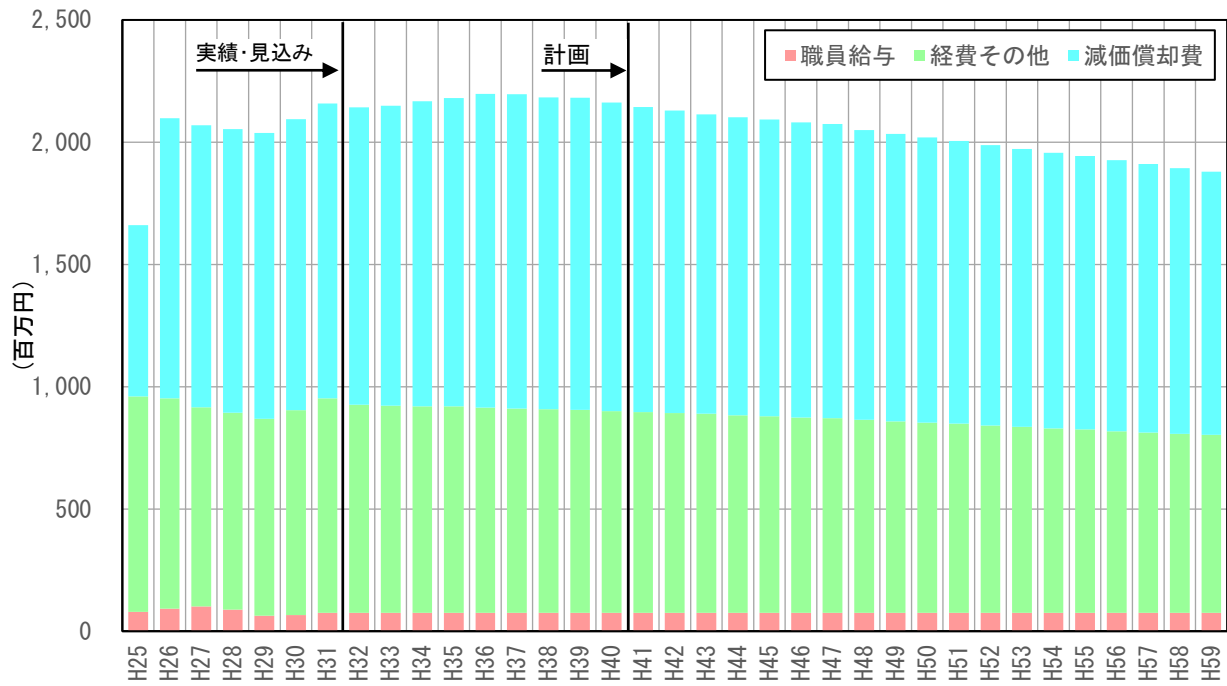


図4.43 営業費用 (百万円) 【ケース3】

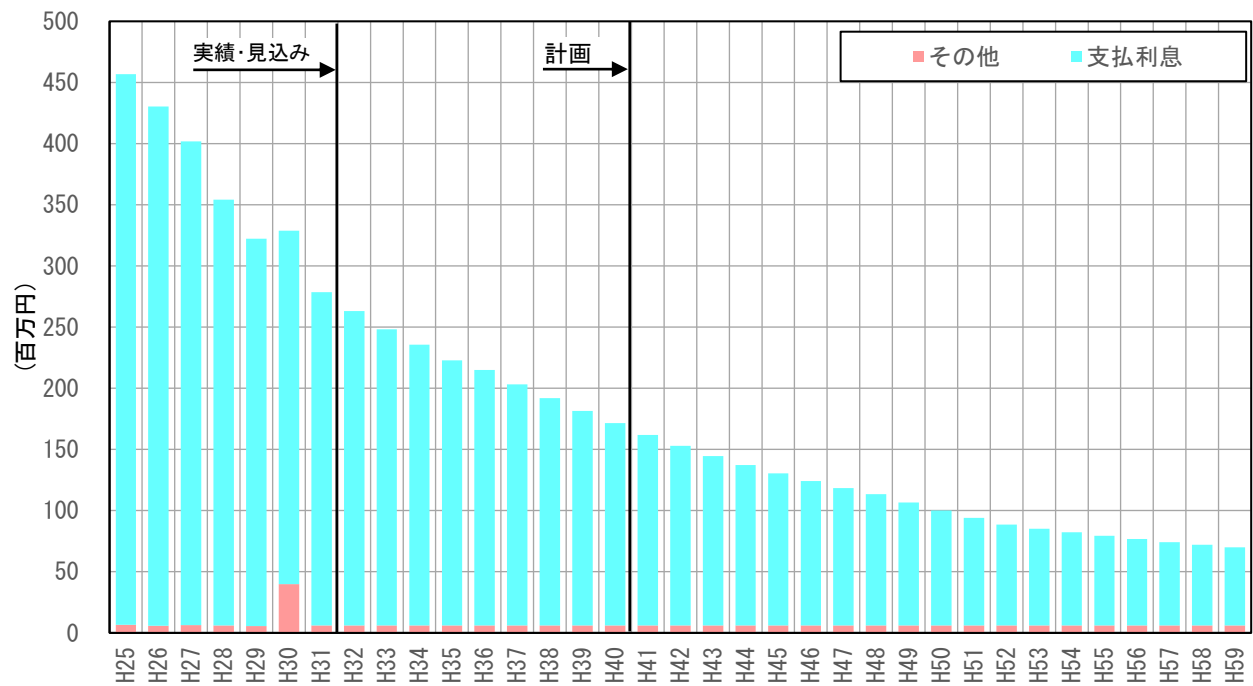


図4.44 営業外費用 (百万円) 【ケース3】

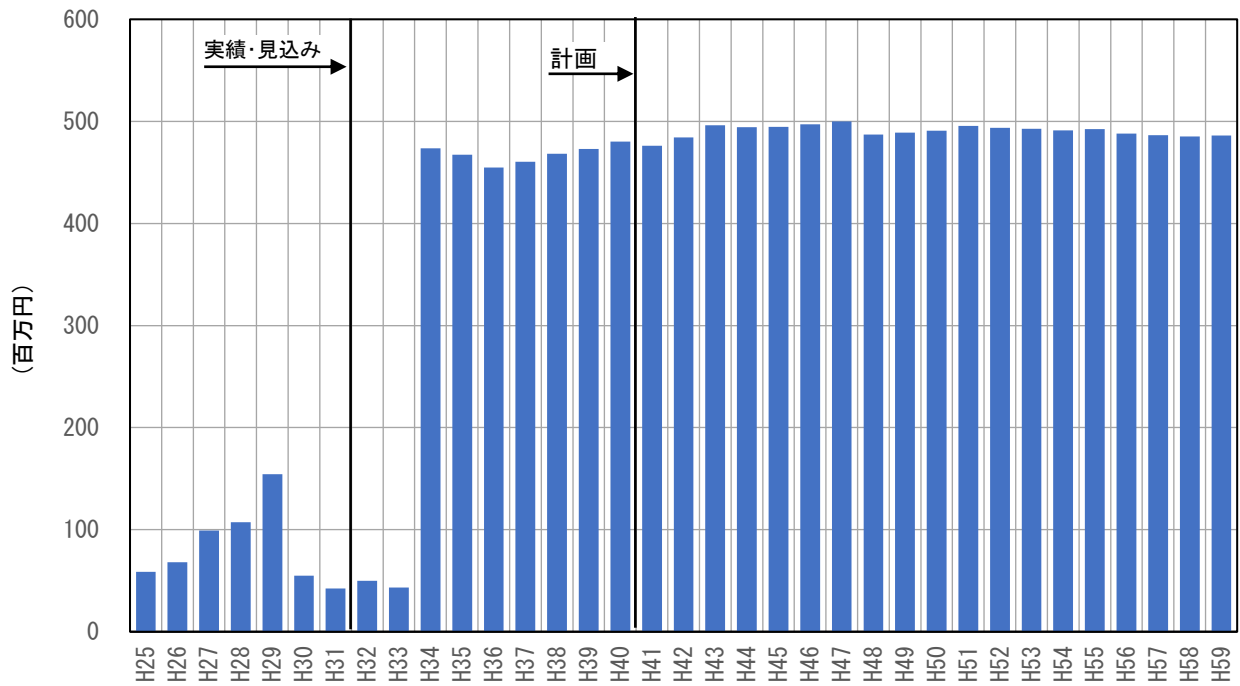


図4.45 経常損益 (百万円) 【ケース3】

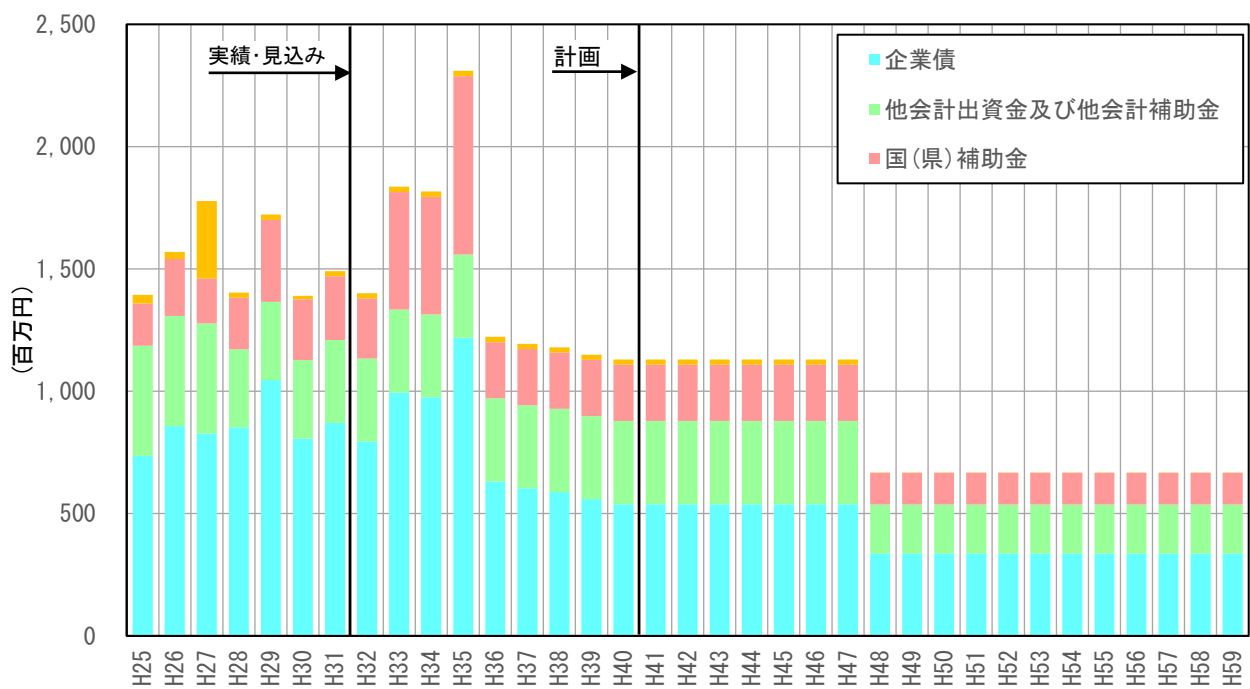


図4.46 資本的収入 (百万円) 【ケース3】

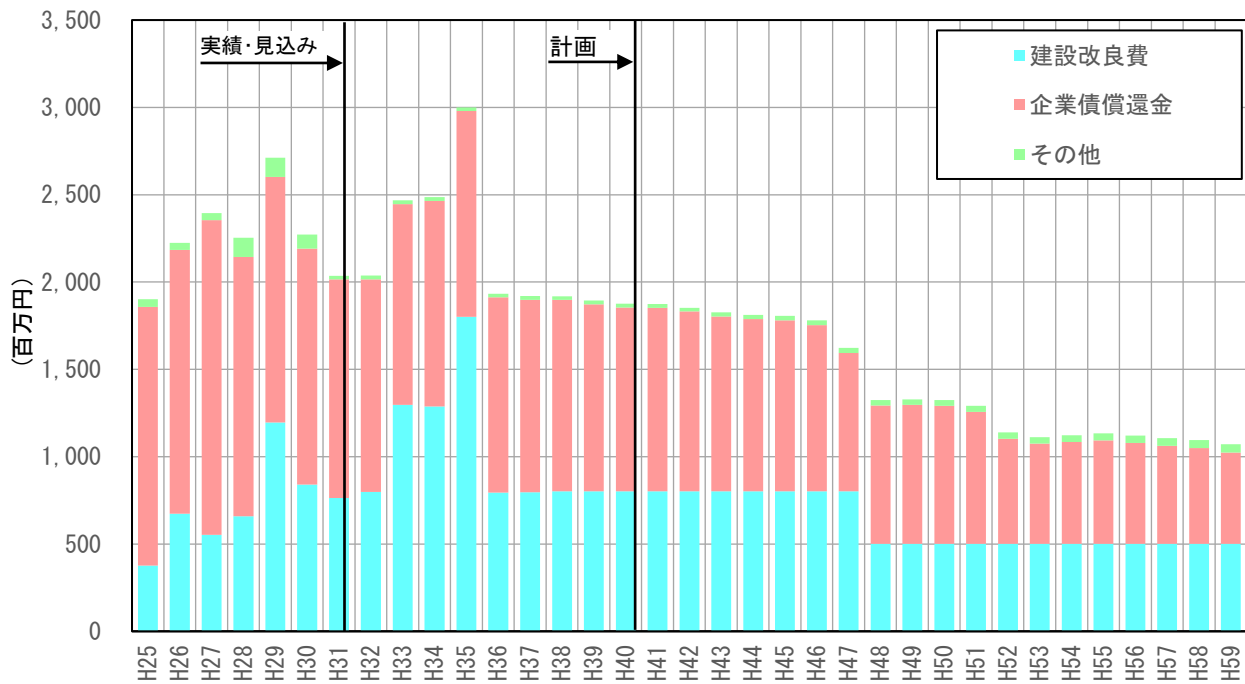


図4.47 資本的支出 (百万円) 【ケース3】

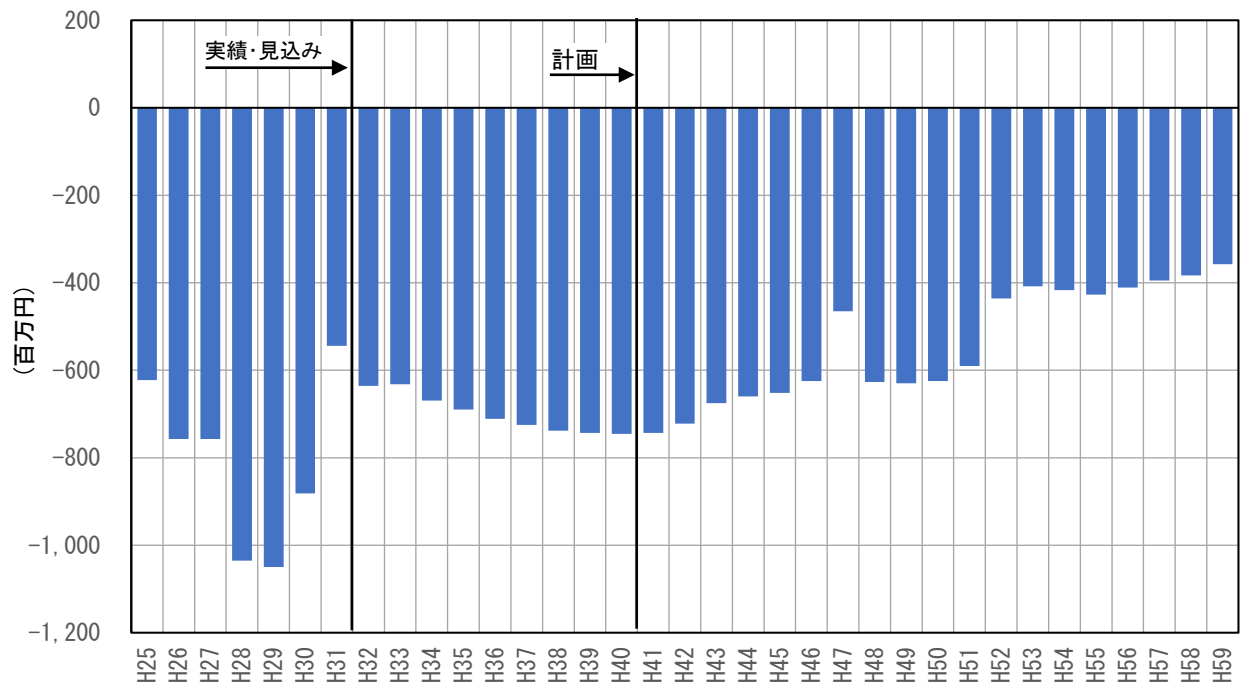


図4.48 資本的収支 (差引) (百万円) 【ケース3】

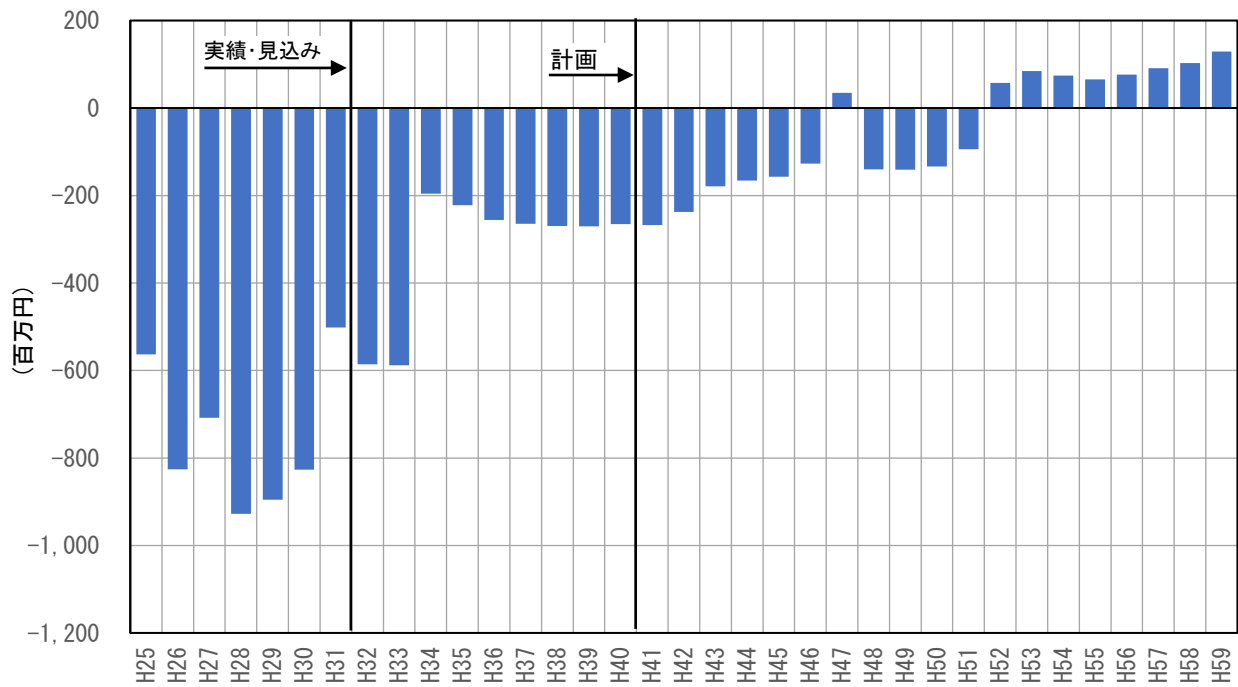


図4.49 収支再差引 (百万円) 【ケース3】

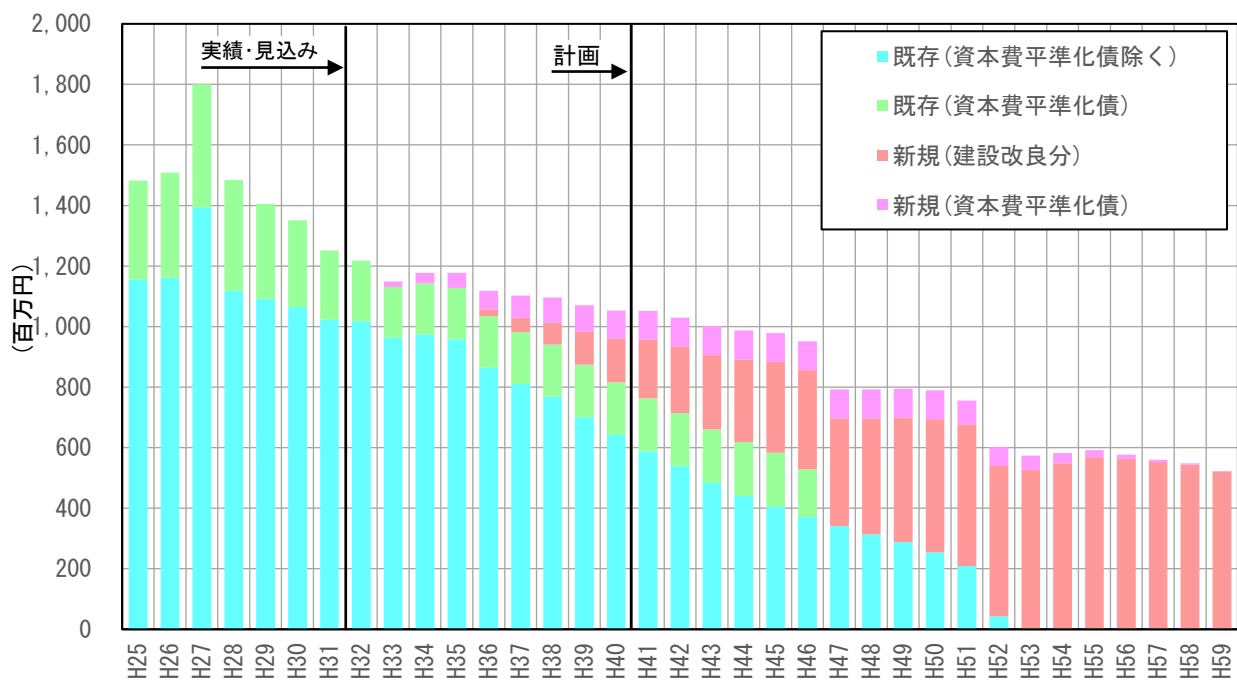


図4.50 企業債償還金 (百万円) 【ケース3】

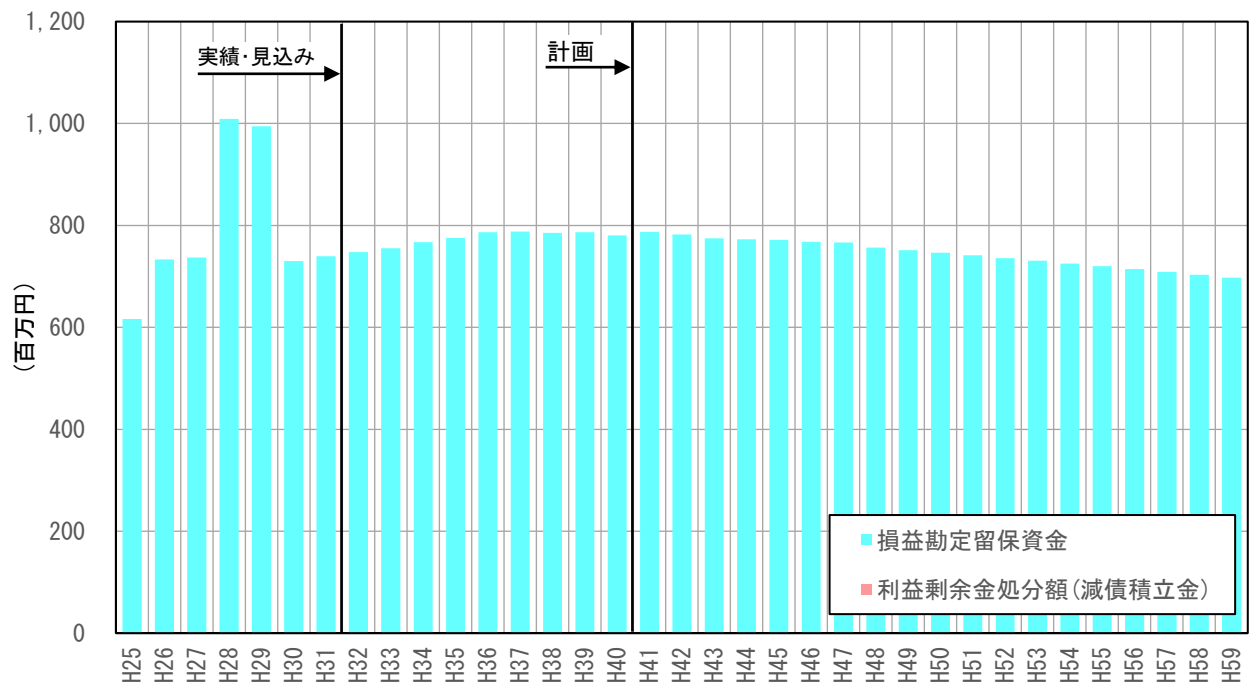


図4.51 補填財源 (百万円) 【ケース3】

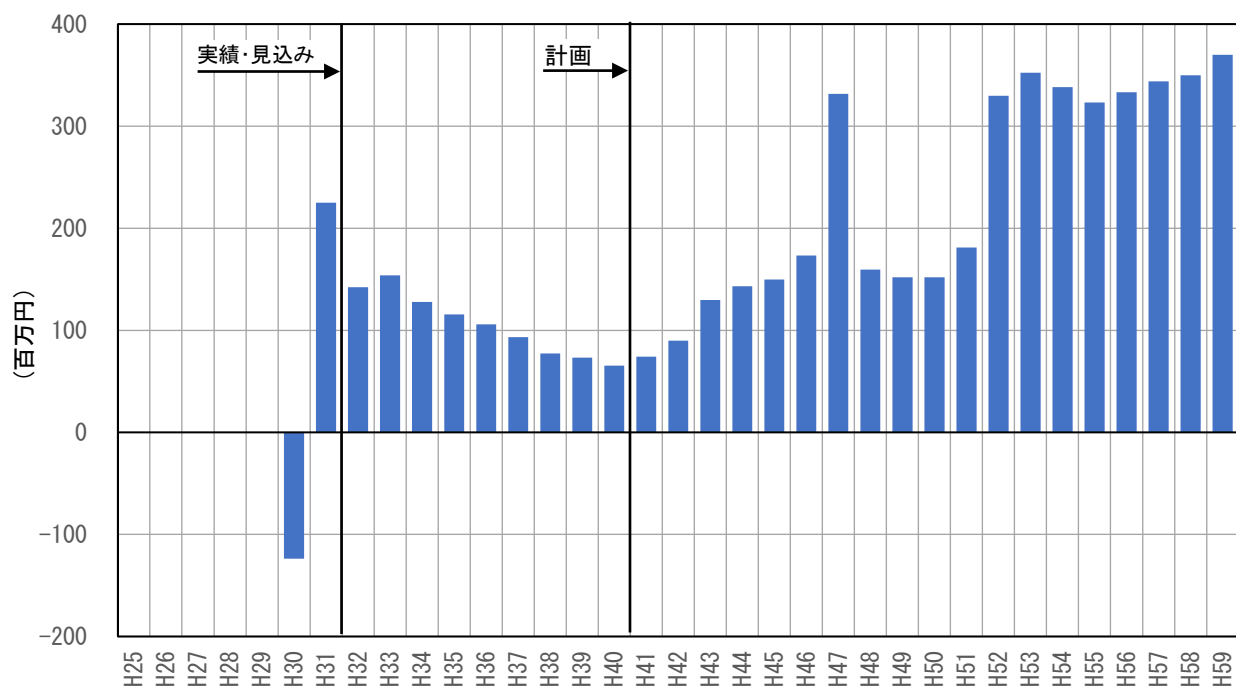


図4.52 補填財源不足額 (百万円) 【ケース3】

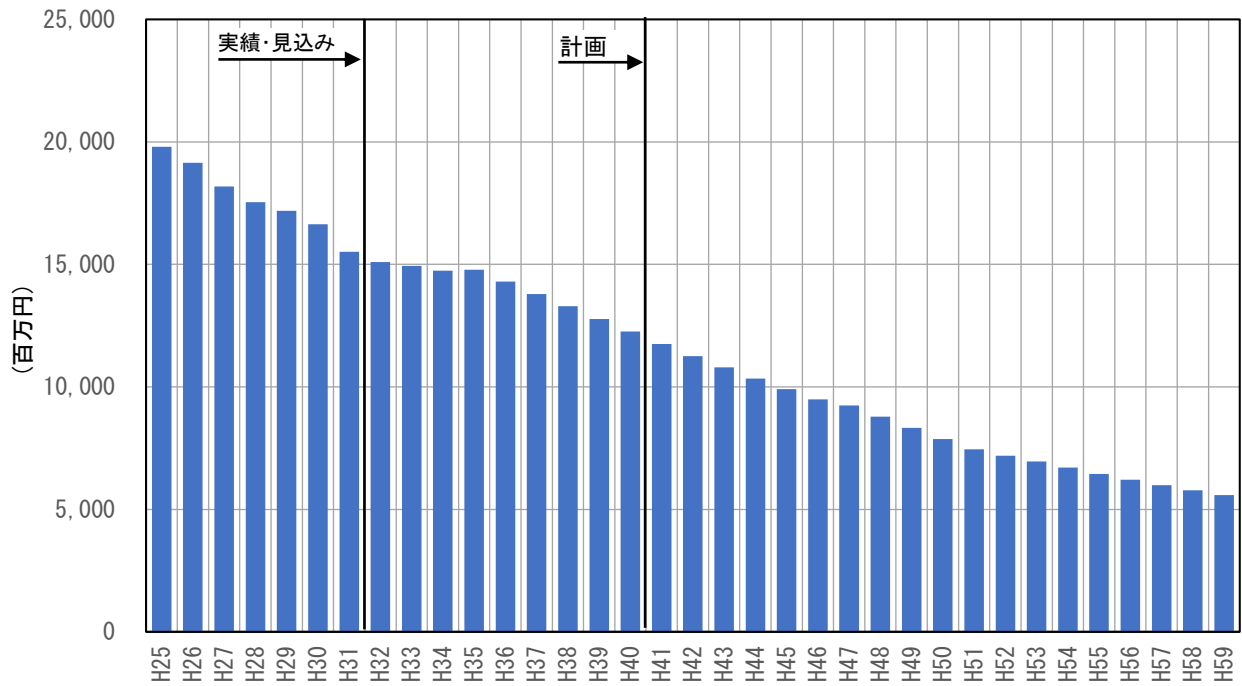


図4.53 企業債残高 (百万円) 【ケース3】

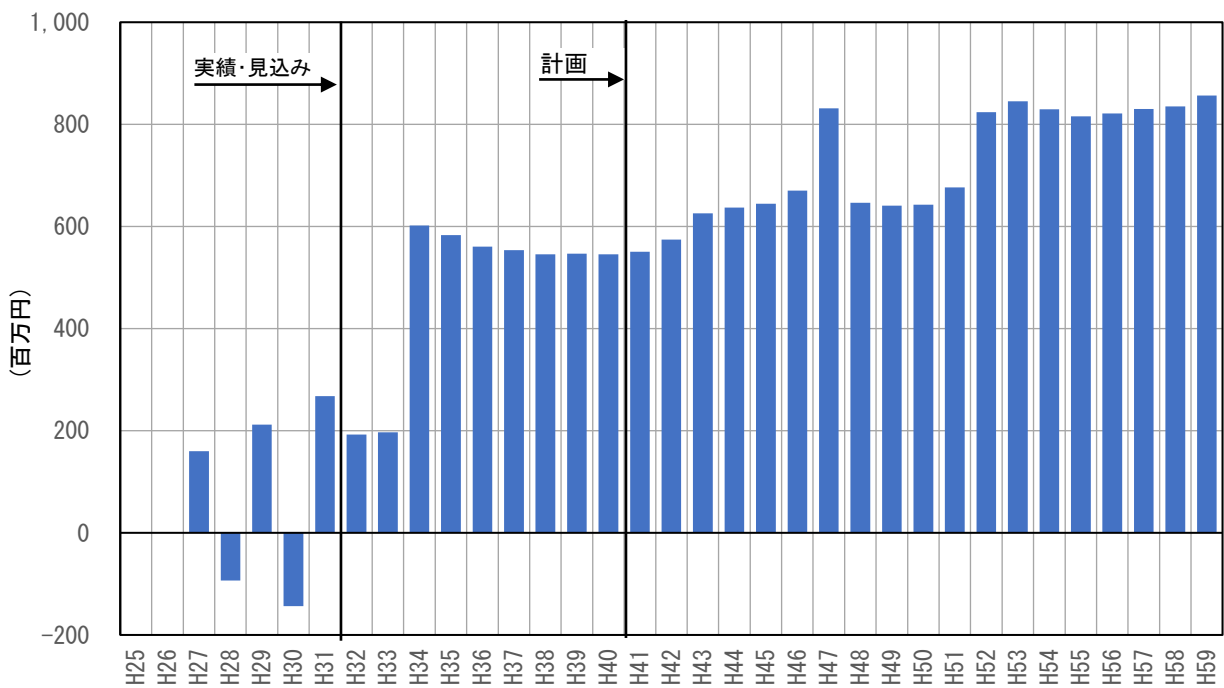


図4.54 キャッシュフロー見込み (百万円) 【ケース3】

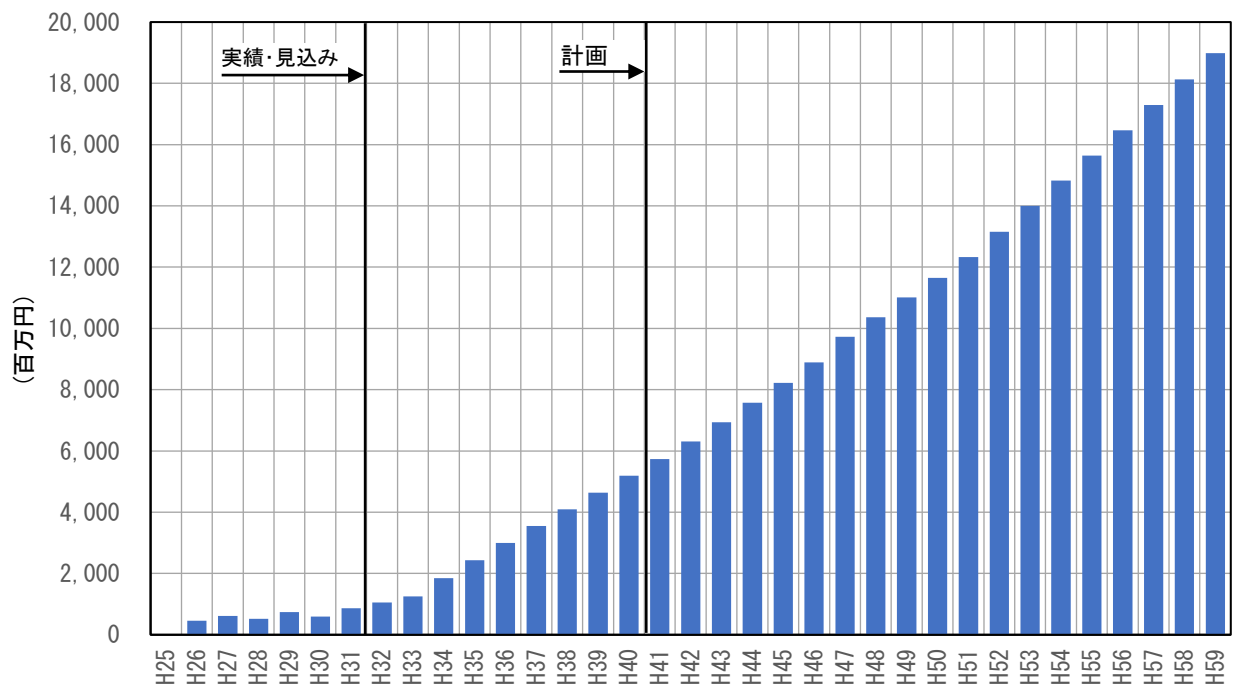


図4.55 資金期末残高 (百万円) 【ケース3】

